

草加市教育委員会会議録

令和2年第5回臨時会

令和2年草加市教育委員会第5回臨時会

令和2年8月6日（木）午前9時50分から

草加市スポーツ健康都市記念体育館

第1・第2会議室

○議 題

第39号議案 令和3年度使用中学校用教科用図書の採択について

○出席者

教 育 長	高 木 宏 幸
教育長職務代理者	村 田 悦 一
教 育 委 員	小 澤 尚 久
教 育 委 員	加 藤 由 美
教 育 委 員	宇田川 久美子
教 育 委 員	川 井 かすみ

○説明員

教育総務部長	青 木 裕
教育総務部副部長	河 野 健
教育総務部副部長	福 島 博 行
総務企画課長	名 倉 毅
指 導 課 長	山 村 一 晃
教科用図書選定資料作成委員会委員長	
教科用図書選定資料作成委員会副委員長	
教科用図書選定資料作成委員会各委員	

○事務局

名 倉 毅

山 岸 亮
兩 角 奏

○傍聽人 18人

令和2年8月6日（木）午前9時50分 開会
（草加市スポーツ健康都市記念体育館 第1・第2会議室）

◎開会の宣言

○高木宏幸教育長 ただ今から、令和2年教育委員会第5回臨時会を開催いたします。

◎前回会議録の承認

○高木宏幸教育長 事務局から前回の会議録を朗読願います。

————— 前回会議録の朗読 —————

○高木宏幸教育長 ただ今、事務局から前回の会議録の朗読がありましたが、これにつきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

（「ありません」と言う者あり）

○高木宏幸教育長 よろしければ、承認することとし、会議録への署名を行いたいと思います。

高木教育長・加藤委員の署名

○高木宏幸教育長 以上で、前回の会議録の承認を終了します。

◎議案審議

○高木宏幸教育長 ただ今から、審議に入らせていただきます。本日の案件は、議案が1件となっております。

なお、本日お配りしております「令和2年教育委員会第5回臨時会説明委員名簿」のとおり、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明委員として出席させますので、ご了承願います。

◎第39号議案 令和3年度使用中学校用教科用図書の採択について

○高木宏幸教育長 それでは、第39号議案につきまして、指導課長より説明させます。

○説明員 令和3年度使用中学校用教科用図書の採択についてご説明申し上げます。

提案理由について申し上げます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により、市立中学校において使用する教科用図書を令和3年度中学校用教科用図書採択

に係る発行者一覧の中から採択する必要が生じたために審議をお願いするものでございます。

なお、教育長及び教育委員の皆様には、今回の採択に当たりまして、令和3年度使用対象教科用図書の出版会社と、何ら関係がないということを誓約書に署名をいただいていることをお伝えいたします。

それでは、これまでの経緯等についてその概略をご説明申し上げます。草加市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第5条に基づき、教科用図書選定資料作成委員会は、教科用図書調査研究専門部会及び学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケートを参考に協議及び検討を行いました。令和2年度教科書展示会につきましては、草加市立中央公民館で6月16日から6月29日までの14日間開催いたしました。教科書展示会では、保護者一般が84人、学校関係者408人、教育委員会等関係者2人、合計494人の方々が閲覧くださいました。この後、教科用図書選定資料作成委員会委員から各種目についてご説明させていただきます。調査の観点・調査研究資料・調査研究報告書をご準備ください。

まずは、草加市の生徒の実態について説明後、草加市の生徒の実態を踏まえての観点について、ご説明いたします。その後、各発行者の特色、特徴等について、目録の発行者順にご説明いたします。説明の際には、各発行者の報告する特色や特徴がよく表れている学年や領域を選びまして、教科書を御覧いただきながらの説明でございます。

なお、サポートには担当の指導主事が入ります。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、説明が終わりました。ここで、第39号議案の進め方につきまして、委員の皆様にお諮りしたいと思います。

まず、各種目の担当委員から選定資料について、報告をいたします。その後、その報告に対する質疑、及び、協議を行います。その後、採択を行いたいと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、早速、「中学校 国語・書写」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 国語・書写〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 国語科についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態についてでございます。各中学校では、漢字や慣用句など「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の基礎・基本を重点として、指導を積み重ねていますが、来年度、中学校で全面実施となる新学習指導要領の3つの資質・能力のうち、「思考力・判断力・表現力等」における「読むこと」の文章の構成や展開を適切に把握することや根拠をもとに自分の考えをもつことに課題が見られます。このことから、自ら進んで読書をしたリ課題を見つけたりしながら、主体的に学習する力を身につけていく必要があります。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、学校図書館の活用の工夫と設定いたしました。

次に、各発行者の特色、特長等についてご説明申し上げます。各発行者の第3学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

まず初めに、東京書籍につきましては、初めに、36ページをご覧ください。「学びの扉」では、文学作品で人物の考えを読み取るという学びを日常生活でも生かせるように漫画でまとめ伝えることで生徒が興味・関心をもって学べるような工夫がされています。次に、51ページをご覧ください。「広がる言葉」を教材末に設け、単元の中で習得した語彙の理解を深められるような工夫がされています。次に、94ページをご覧ください。「読書活動の案内」として読書会について触れ、グループごとに読んだ本の感想を交換したり、資料から分かったことを伝え合ったりするなど、主体的で対話的な活動が行えるよう配慮されています。次に、135ページをご覧ください。草加になじみのある松尾芭蕉の「おくのほそ道」の冒頭を2ページに渡って配置しています。また、137、138ページにある旅程図は折り込み式で、写真入りで俳句を紹介し、裏面には江戸から平泉までの旅程の資料を掲載しています。次に、143ページをご覧ください。「振り返り」を設け、「おくのほそ道」の表現の特徴などについて考え、話し合う活動を取り入れております。

次に、三省堂につきましては、同じく第3学年の51ページをご覧ください。単元ごとに「学びの道しるべ」で「語彙を豊かに」を設け、語彙の拡充が図られるように配慮されております。次に、71ページをご覧ください。「読み方を学ぼう」を設け、生徒が文学作品を読むときの「技」や「こつ」が示されております。次に、84ページをご覧ください。「私の読書体験」を設け、作家が様々な本について、内容に触れながら本のすばらしさを生徒に語りかけるような形式をとり、生徒が本に親しみやすくする工夫がされています。次に、120、121ページをご覧ください。「おくのほそ道」の冒頭を見開き2ページで提示しています。126ページにありますように、旅程図は折り込み式で、写真入りで俳句を紹介しております。

次に、129ページをご覧ください。「学びを広げる」を設け、「おくのほそ道」から一句を選んで紹介し合う活動を取り入れております。

続きまして、教育出版につきましては、同じく第3学年、30ページをご覧ください。「学びナビ」によって生徒自身が、その教材を通じて「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を知り、見通しをもって学習が進められるよう工夫がされております。次に、44ページをご覧ください。教材末に「この教材で学ぶ漢字」や「この教材で学ぶ言葉」、また、46ページにありますように練習問題を設け、基礎・基本の定着が図れるよう工夫されております。次に、54ページをご覧ください。「読書への招待」という教材後に「みちしるべ」でビブリオバトルを設けることで、本の魅力などに触れ、本の世界を広げられるような工夫がされております。次に、118ページをご覧ください。「おくのほそ道」の紹介後、旅程図を118、119ページに見開き2ページ、俳句を写真入りで紹介しています。「草加」の地名も記載されております。次に、125ページをご覧ください。読みを深めるために、松尾芭蕉の心情などを話し合う活動を取り入れております。

最後に、光村図書出版につきまして、同じく第3学年、47ページをご覧ください。教材ごとに二次元コードがあり、教材と連動したコンテンツを閲覧できることで、生徒の関心・意欲を高めることができるとともに、家庭学習でも役立てることができるようになっております。次に、48ページをご覧ください。「学習の窓」には、生徒のつまずきを解消するヒントを示しており、生徒が活用しやすく、発展的に学習できる内容となっております。次に、80ページをご覧ください。ブックトークでの本の紹介だけでなく、学校図書館を活用しての発表や対話的な授業展開も行えるような内容が含まれ、社会生活につながる読書活動を取り入れております。また、その後も91ページまで読書生活を豊かにするための教材が設けられております。次に、154、155ページをご覧ください。「おくのほそ道」の冒頭を見開き2ページで提示しております。旅程図につきましても156、157ページで見開きで示し、生徒の興味が高まるように俳句のイメージを写真入りで紹介しています。なお、草加の地名も記載されております。最後に、161ページをご覧ください。古典で学んだことを日常生活などで生かすことができるような教材を設けています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思いません。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 今ご説明いただいた中で、草加市の学校図書館や公共図書館の整備状況、図

書館活用の工夫という観点も踏まえ、生徒が取り組みやすい、又は、こういうところが工夫されているというようなどころがありましたら、幾つか挙げていただきたいと思います。

○説明員 各発行者、教材ごとに関連図書等を紹介しておりますが、学校図書館の活用に関する教材数でいえば、教育出版が多くの教材を配置しております。東京書籍は、「本の世界を広げよう」で読み比べができるような工夫がされております。三省堂は、「読者の広場」を配置し、多くのページを割いて図書の紹介をしております。光村図書出版は、教材の配置だけでなく、自分に合った本の探し方を提案したり、作品の一部を紹介し、続きを読むように促していることが特徴です。

○村田悦一教育長職務代理者 本市には「草加市子ども読書活動推進計画」があり、それに基づいて読書活動の推進等を行っているわけですが、先ほどの実態の中でも、自ら進んで読書をしたい、そういう視点で更に踏み込むと、「草加市子ども読書活動推進計画」との関連性や、先ほどビブリオバトルというような言葉も出てきましたが、何か特徴的なところがあれば教えてください。

○説明員 「草加市子ども読書活動推進計画」の中では読書活動の推進が挙げられております。各発行者とも生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう、ビブリオバトルや読書会、ブックトーク等を設けております。その中でも光村図書出版などは、3つの読書活動を見開き1ページで紹介しているのが特徴です。

○宇田川久美子委員 光村図書出版の各教科の最後に二次元コードというお話がありましたが、他の教科書ではどのような扱いになっていますか。

○説明員 各発行者とも、ウェブサイトによるデジタルコンテンツを設けております。先ほど申しましたが、光村図書出版は、教材ごとに二次元コードを配置しております。なお、東京書籍はDマーク、三省堂は読書広場と古典教材に二次元コード、教育出版は学びリンク等を設けているのが特徴です。

○宇田川久美子委員 教材ごとに設けているのは光村図書出版だけということですか。

○説明員 はい、そのようになります。

○加藤由美委員 今のことと関連してなのですが、どれぐらいの割合で二次元コード等は授業で使えるのでしょうか。

○説明員 調査は行ってはいませんが、生徒のほとんどが読み込めるコンテンツをもっているかと捉えております。

○川井かすみ委員 「幼保小中を一貫した教育」の観点から、教科書にはどのような特徴が見

られますか。

○説明員 各発行者とも、知識及び技能、思考力・判断・表現力等で構成されておりまして、新学習指導要領に示されている資質・能力が一貫して育まれるよう工夫されております。特に、学年の接続、小学校から中学校という形で考えれば、中学1年の初めの部分に、小学校の段階を踏まえてから中学校国語が始められるような工夫がされております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど3年生の教科書で、古典に触れるという中で「おくのほそ道」を取り上げていました。草加では、「学ぼう！ふるさと草加」ということで、総合的な学習や関連した各教科でふるさと草加を学ぶ、そういう教育活動を展開しているわけですが、教科書会社4者の「おくのほそ道」の取り上げ方もそうですが、古典に触れるだけではなく、国語科の中には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、これらはやはりバランス良く育てるとともに、言語活動を通じて育てなくてはいけないと思います。そういう観点も含めながら、4者ともこの「おくのほそ道」の題材を取り上げているわけですが、4者中2者が地図の中で草加の位置を示していますが、それ以外に何か特徴的なことがあれば、ご説明いただければと思います。

○説明員 草加市の取組として、松尾芭蕉の「おくのほそ道」については、小学校あるいは中学校、幼保小中を一貫した教育の中で取り入れていることが多く、「おくのほそ道」と草加との関わりというのは、幼少の頃から身近に感じているものであり、非常に親しみをもっていると考えております。そのような中で、「おくのほそ道」をしっかりと学習できるようにということで、各者ともいろいろな工夫をしております。原文の下に口語訳をつけ、理解を助けるとか、あとは、旅程図なども、先ほど示しましたように、折り込み式のものを取り入れて、日本地図の中でどのような旅程がなされていたのかなど、そういうものを見ることができます。それらを基に学習することで、俳句についての興味を高めたり、「おくのほそ道」の紀行文そのものについて討論会を開いたりといったことができると思います。また、「おくのほそ道」を学習したことで俳句について自分たちでも創作してみようとか、芭蕉の作った俳句について討論してみようとかそういう発展的な学習も取り入れているところでございます。

○村田悦一教育長職務代理者 実態のところ、各中学校で「伝統的な言語文化」という、言語文化に「伝統的な」が付いているのですが、このことは古典や古いものだけを学ぶことだけではないと思うのですが、新学習指導要領での「伝統的な」という取扱いは、教科書ではどのように具体的に示されているのでしょうか。

○説明員 現行の指導要領では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ということ

になっております。新学習指導要領でも、言語に関する特質を学ぶという中にこの伝統的な部分が入ってきております。生徒たちにとっても日本古来の文章である古典を学ぶとともに、今後の未来社会に向けての言語の変遷というものを学べるものとなっております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に「書写」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 国語・書写〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 書写の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、生徒の実態でございますが、「書く」活動は、各教科、領域を通して、自己表現するために必要となる学習活動であるとともに、社会生活の様々な場においても、自分の思いや考えを表現する大切な活動です。各中学校では、小学校で学んだ書く姿勢や筆記具の持ち方に留意して、文字の形や書き順などに気を付けながら、丁寧に正しく美しい文字を書くことなどを生かし、書体の違いに留意して、文字を正しく書けるよう指導しております。しかしながら、書写の時間に習得した知識や技能を日常生活における文字を書く場面に生かすことが課題となっております。そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、毛筆と硬筆の関連、各教科や社会生活との関わりの工夫と設定いたしました。

次に、各発行者の特色、特長等についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍につきましては、8ページをご覧ください。まずは小学校の復習から入り、字形と配列を整える書き方を確認することができるようになっております。また10ページには、楷書の基本点画について、3ページにわたって示しております。横画や縦画、折れなど9つの基本点画を「トン」「スー」「ピタ」と生徒がイメージしやすいオノマトペ、擬音語を使って示しています。筆圧については、穂先の状態を絵図で示すと同時にポイントが説明されており、生徒の理解を助けております。次に52ページをご覧ください。「見つけよう」で、硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」で毛筆、「生かそう」で再度硬筆で学びを生かす流れとなっております。76ページをご覧ください。防災訓練に参加して学んだことをパンフレットにまとめるまでの流れが示されており、77ページでは、生徒作品を例に挙げております。次に96ページをご覧ください。「おくのほそ道」を書いて古典を味わう項目となっております、国語の学びを生かすことができるようになっております。

次に、三省堂につきましては、初めに、8ページをご覧ください。「学習のはじめに」で、

姿勢とともに大筆の持ち方、小筆の持ち方・構え方を1ページで示しています。また、二次元コードを読み取ることで、硬筆・毛筆の姿勢や持ち方、筆の運び方などの内容が見られるようになっており、生徒の理解を助けております。さらに、10ページには毛筆で書くときの筆の運び方として「筆圧」「穂先」「軸の傾き」「腕の動き」について絵図を示して説明しております。次に、30、31ページをご覧ください。「書いて身につけよう」では、国語で学んだ古典のほか、アルファベットなどのなぞり書き等もあり、他教科や日常生活との関連が図られております。次に、54ページをご覧ください。毛筆で学んだことを硬筆で書いて生かすことができるよう工夫されております。次に、74ページをご覧ください。文字に関わる仕事について触れているとともに、「文字」の魅力について話し合う活動が設けられております。

続いて、教育出版になります。初めに、14ページをご覧ください。毛筆教材では、穂先の通り道を朱墨で示し、技能が視覚的に捉えやすいように工夫されております。次に、18ページをご覧ください。「試し書き」で硬筆、「考えよう」で毛筆になり、書き方のポイントを考えさせ、めあてをもって主体的に学習できるように工夫されております。そして、「生かそう」で再度硬筆になり、まとめ書きと応用で学習したことを生かして書くという流れになっております。次に、72ページをご覧ください。文学作品の一部を視写するなど、国語との関連が図られております。また、「考えよう」の項目では、行書の特徴や速く書きやすくするための工夫について思考させる「問い」が設けられております。次に、84ページをご覧ください。「学習活動や日常生活に生かして書こう」では、活用例を写真で示すことで、生徒がイメージしやすい内容となっております。

最後に、光村図書出版です。初めに、32、33ページをご覧ください。「学習のはじめに」で、書くときの姿勢と筆記用具の持ち方を1ページで示しています。また、項目ごとにある二次元コードを読み取ることで、硬筆・毛筆の姿勢や筆の運び方などの内容が見られるようになっており、生徒の理解を助けております。巻頭にある、別冊書写ブックをご覧ください。この書写ブックでは、22ページにあるように名文を書いたり、26ページにあるように年賀状を書いたりとこれまでの学びを生かして学習できるように工夫されております。次に、80ページをご覧ください。「行書を活用しよう」では、本の帯や立て看板など、生徒の作成した実物を載せることで、生徒がイメージしやすい内容となっております。最後に、108ページをご覧ください。書写で学んだことを国語と関連させて学べるように工夫されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思ひ

ます。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 小学校での学びを生かしながらというように草加市の生徒の実態でありましたが、小学校で、今、使用している教科書というのは、参考までにどちらの発行者になりますか。

○説明員 現在、草加市の小学校で使用している教科書は教育出版でございます。

○宇田川久美子委員 草加市の実態の中で、書写を日常生活や社会生活で生かすということですが、この生かすというのは、どのような場面を想定していますか。また、使いやすい教科書というのはありますか。

○説明員 書写で学んだことを日常生活等で生かしていくというのが書写の活動ではございます。その中で、実際に習った文字について、それをいかに自分たちの日常生活の中に生かしているか、それができるよう各発行者とも工夫して、教材として取り入れております。

○村田悦一教育長職務代理者 今の生かすということの関連ですが、私は、具体的には生かすということは、日常生活の中でそれぞれの場面や、先ほどもいろいろありましたが、目的に応じて書写できる、そういう意味では、教育出版の4、5ページに「目的に合わせて書こう」という形で2ページにわたり、誰に何を書くか、どのように何を使って何を書く等が書いてあります。これが、私の理解では、書写力を生かした日常生活に生かすことだと思うのですが、他の教科書会社ではこの辺のことをどう理解して書かれているのか。あるいは、特に草加市での実態の中で場面に生かすということを取り扱っているようなところはありませんか。

○説明員 教育出版につきましては、このような目的に合わせて書こうという内容が示されておりますが、他の出版社について、特にそれを取り上げているということはないと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど、国語のところで、「伝統的な言語文化」ということでお尋ねをさせていただきましたが、書写の中で、私は、伝統的な文字文化、文字文化というものこの書写で小学校から中学校、そして高校になると、今度は、国語は書写から芸術科書道に行くわけですので、この文字文化ということそれぞれの教科書はどのように意識しているか、どのように扱っているのか、その辺の特徴的なことというか、表されているようなところはありませんか。

○説明員 今回の学習指導要領の改訂で、特に文字文化について新しく学びの視点が明確化されました。それに伴いまして、各発行者ともこの文字文化につきまして、日常生活あるいは社会生活、更には高等学校の芸術書道に結び付けられるような教材を設定しております。

○村田悦一教育長職務代理者 そういう意味では、同じく教育出版の10ページ、そこに書写

を通して学んでいくことの中で、最終的には文字文化への広がりということで、今言われているアクティブ・ラーニングの、何を学ぶか、どのように学ぶか、何を身につけるか。効果的に書く力を身につけるといような形で、主体的な対話から学ぶ、深く学ぶといようなことが1つの中でうまく表されていると思います。これが、実際、この後の1学年から2学年、3学年の中で具体的にできているかどうかは、それぞれ評価の分かれるところだと思いますが、自ら考え文字を効果的に使う力を学ぼう、文字文化を受け継いでいこうという、そういう大きく意図するものは、ここにはっきり表れているという気がします。他では、こういう形で文字文化について特にまとめている教科書はありますか。

○説明員 このような図で示すということについては、文字文化についてはないですが、どの発行者も文字文化について大切に扱っているところではございます。

○村田悦一教育長職務代理者 草加の実態の中で、硬筆と毛筆とを関連させるという、これはもう前からずっと言われているわけですが、毛筆と硬筆の関連をさせるというのは、1時間の書写の指導の中で、毛筆を使ったら硬筆で書くなど、それだけで終わっていないのか、そういう意味では、どのように関連させたのかと考えたらいいのでしょうか。

○説明員 硬筆と毛筆の関連については、各発行者とも重点を置いているところです。特に毛筆を単独で、硬筆を単独でという意味合いではなく、毛筆で学んだ筆遣いや筆圧、そのようなものを硬筆においても生かせるようにしていく。また、硬筆で正しく整った字形を意識して書くことを毛筆の中にも生かしていく。そのような関連付けを図っていることはあります。この硬筆、毛筆を関連付けて学習していくことで、日常生活の中でポスター等を作ったりするときに、毛筆の方がいいとか、題名は太い字がいいとか、そういうことにもつながっていく。そういうことを学べるようになっております。

○村田悦一教育長職務代理者 「とめ」や「はね」、「はらい」等、硬筆の鉛筆ではなかなか分からないところを毛筆でより意識して、とめたり、はねたりしています。現実には、中学校では行書が出てくると、木偏はとめるのですが、今度はつながりという形で、「とめ」や「はらい」等が毛筆と硬筆の関連の中でしっかり押さえていかないと、分からなくなってしまうと思います。そういうところを意識していくことが大事だと思います。特に毛筆、硬筆の関連については、4者ともどこもやっているというように見えたのですが、草加の生徒の実態や、毛筆、硬筆の関連ということで何か特徴的なことをやっているところはありますか。

○説明員 確かに中学校において行書の取組は入ってきております。速く書くためには行書の特徴をしっかりと理解していることが必要です。ただ、基礎、基本の中で、楷書の「とめ」「は

ね」「はらい」もしっかり学習していかなければいけないと思います。それらを踏まえ、筆遣いを理解した上での学習というのが大切になってきます。説明の中でも申しましたように、各発行者とも筆遣い等には重点を置いて、筆圧や「とめ」「はね」「はらい」等、基礎、基本的な部分については扱っているところでございます。

○加藤由美委員 社会生活で文字を書くといった場面に生かすことが課題となっておりますが、各者、ポスターを書くなどいろいろありますが、生徒たちが実際にポスターを書いたりするようなことはあるのでしょうか。

○説明員 書写の時間に学んだ文字について、それを生かして学校の教育活動の中で、総合的な学習や、特別活動の中で、あるいは日常生活の中で文字について生かせるようにしております。昨今、中学生の文字離れが課題になっていますが、やはり何かを伝えるときに、手書きの文字というものを、文字文化を大切にしていこうという姿勢で取り組んでいるところでございます。

○宇田川久美子委員 先ほど村田委員のお話で、書写から書道へというお話がありましたが、書写と書道というのは、位置付けとしてどのように違っているのか、また、この書写から高校生の書道へというような流れについて、何か特徴的なことがあったら教えてください。

○説明員 小学校、中学校を通じて書写ということで、文字を正しく整えて書くということを学びます。高等学校において、芸術科の書道につきましては、文字を芸術として表現します。文字に自分の思いを乗せるということが主になってきます。そういう意味で、中学校段階で、特に3年生になったときに、書道について、高等学校の書道科につながるような教材を配置して、興味、関心を持たせて応用させているところでございます。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど、4者の教科書の特色の中で、国語でいえば「おくのほそ道」が全部ありましたが、書写の中では「おくのほそ道」については、東京書籍だけがありました。他の3者は「おくのほそ道」は載っていないのでしょうか。それとも、載っていたけれども言っていないのか。その辺はどうでしょうか。

○説明員 東京書籍は「おくのほそ道」を取り扱っていたということで、他の者については、詳しく調べないと断定はできないのですが、申し訳ございません。

○村田悦一教育長職務代理者 私が見たところでは、光村図書出版のところは、書写ブックの中でこういうのがありますという説明の中で「おくのほそ道」があったと思うのですが。それから教育出版でも、「おくのほそ道」のところが出ていると思うのですが、三省堂については確認できなかったのですが、「おくのほそ道」を扱っているのは1者だけというところがあっ

たので、そこは違うということですね。

○説明員 ご指摘のとおり、東京書籍以外でも「おくのほそ道」を取り上げているとうことでございます。

○高木宏幸教育長 私からも質問させていただきます。1点目は、単純な質問ですが、4者あるうち東京書籍と教育出版はA B判ですよ。他の2者は違います。このA B判は広がり良さがあると思いますが、逆にマイナス面もあれば教えてください。それから、もう一点は、先ほど毛筆と硬筆の関連の話がありましたが、説明の中で、たしか東京書籍と教育出版は硬筆で書いて、それから毛筆で書いて、また硬筆に戻るという関連があったと思います。他の2者はそういう説明、紹介はなかったと思うのですが、関連というときに、硬筆、毛筆でまた意識をして、そこからまた硬筆に戻ってくるというこの順序性を国語科としてはどう考えるのか。その辺りの考えを示してもらえればと思います。

○説明員 4つの教科書の大きさについてですが、特段、こうだからいいとか、そういうものではないように思います。各発行者の考えがその大きさに表れているのだろうというふうに推察しております。よく半紙で毛筆などを学習したりするとき、その半紙の縦横のサイズが合っていると、指導者としては扱いやすいというメリットがあるのではないかと考えております。ただ、かといって、大きい発行者のところについては、その半紙の大きさの横にいろいろなものを書いてということができるよう。2点目の硬筆と毛筆の順序性あるいは関連性ですが、最終的には指導者の取扱い、生徒の実態に合わせて行えるようにということをやっているところ。特に毛筆につきましては、書写の道具を用意したり、そういうものもありますので、硬筆をしっかり学習し、毛筆に生かしていく。あるいは、毛筆を行ったから、今度硬筆に生かす。そのような関連付けを行いながら、文字について学習させていくということです。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございませんか。

それでは、次に、「中学校 社会・地図」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 社会・地図〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 社会科についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態でございますが、作業的な学習や調べ学習には意欲を示しますが、調べた内容から自分の考えをもつことや、自分の言葉で表現する力、また、資料を読み取り、それを活用して多面的・多角的に考察する力が課題でございます。

中学校社会科の目標や3分野の目標には柱書があり、それぞれの柱書には、社会的な見方・考え方を働かせることが記されております。

社会的な見方・考え方を働かせることは、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、主体的・対話的な深い学びを実現することで身につけていく必要がございます。そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点でございますが、地理的分野・歴史的分野・公民的分野については「学習問題の追究・解決する活動の充実」、地図については「資料の活用能力」といたしました。

次に、発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。最初に地理的分野について申し上げます。各発行者の「日本の山地や平野、河川について」記述している単元の中の特に「扇状地や三角州」を例にとり、ご説明申し上げます。地理的分野については、4者ともに、基本的に見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。1時間の学習課題が左上、学習内容のまとめが右下に設けられております。まとめ方については、各者で特色がございます。また、各単元には、各者ともに単元全体のまとめがあり、基礎・基本の内容と地理的な見方・考え方を使ってまとめる2段階で更に深められるように設定されている教科書もあります。

では、発行者ごとに取り上げていきたいと思っております。

まず、東京書籍でございます。160ページをご覧ください。扇状地と三角州は、写真資料と地形図を並べて掲載するなど、イメージをも持ちやすく、地理的な見方の基礎が学習できるように工夫されております。161ページをご覧ください。扇状地や三角州のイラストが広い地形とともに分かりやすく表現されています。イラストの右に掲載されている地形の分類表も、これまでに学習した内容を振り返り、読み取りに必要な知識を掲載しています。161ページの下には1時間の学習課題と確認としての「チェック」、まとめとして考察する活動との「トライ」が設けられています。この2ページの下部にあるような「まとめる」「読み取る」などや教科書全体で32項目設けられております「スキルアップ」というコーナーで、資料活用の技能を学ぶことができます。157ページをご覧ください。この単元全体の探究課題を作るために「みんなでチャレンジ」でウェビングの手法に取り組みせ、178ページの「みんなでチャレンジ」というコーナーで整理をしながらまとめ、単元全体を解決する方法を学習させることで深い学びにつなげております。180ページをご覧ください。「もっと地理」というコーナーでは、単元で学習した内容を広げたり、まとめたりする工夫が見られております。

次に、教育出版でございます。154ページ、155ページをご覧ください。扇状地と三角州の写真が分かりやすいイラストで紹介し、写真とイラストを対比させながら理解できるよう工夫されています。1時間ごとの学習課題を154ページの左上に提示するとともに、155ページの右下には、1時間の学習により解決する「確認」と、学習した内容の関連を考え、まとめたり説明したりする「表現」のコーナーが設けられています。1時間の学習を振り返り、意見交換をしたり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることによって、学びが深まるように構成をされています。また、155ページの下段には、関連するキーワード情報の他のページへの掲載情報が記されていることが特徴となっております。172ページをご覧ください。章の初めに示された学習の視点を基に学習を進め、単元の最後に全体のまとめとして、語句の確認をする「ワードチェック」、地図を使った確認、表現、意見交換で学習が深めるように工夫されております。この他に、51項目の興味・関心を広げていく学習コラム「地理の窓」や、資料活用の技能を学習する「地理の技」というコーナーが掲載されています。

次に、帝国書院でございます。142ページ、143ページをご覧ください。日本の地形の特徴が見やすい大きめの写真資料と地図で掲載されております。142ページの上を示されているのが、単元の課題になります。144ページ、145ページをご覧ください。写真とイラストの両方を見ながら「扇状地とその利用」「三角州とその利用」についての解説が付され、比較しながら考えることができる内容となっております。1時間の学習課題を左上に示し、学習のまとめを教科書の図を使って読み取り、確認する「確認しよう」のコーナーと、学習した内容を説明する「説明しよう」のコーナーでまとめるような形になっています。168ページ、169ページをご覧ください。168ページでは単元の課題の知識を習得できるよう構成されております。169ページでは「地理的な見方・考え方」を働かせて、思考力・判断力・表現力を育成し学習を深めることができるように構成されています。170ページから173ページまでの間をご覧ください。教科書全体を通して、写真、イラスト、地図、表、グラフ等が豊富に掲載され、「技能をみがく」という地理を学習する上で必要な、基礎的な技能を身につけ活用できるコーナーや、環境、防災、共生をテーマとした「未来に向けて」というコーナーが紹介されております。

最後に、日本文教出版でございます。140ページ、141ページをご覧ください。日本の主な山地、島、平地、川の地図を並べて関連付けて学習できるようになっています。140ページの扇状地、三角州の写真、141ページの砂浜海岸とリアス式海岸の写真が比較できるように並べて掲載されております。左上に学習課題が示され、その下に「見方・考え方」の例が

掲載され、学習で着目する視点を示しています。右側のページには「見方・考え方」を働かせて考える、深めていく「深めよう」の問いが掲載されております。まとめは、右下の「確認」のコーナーで説明をする活動に取り組めるようになっております。141ページの右上には、見開きの学習内容に関する事項を掘り下げて、学習内容の理解を深めることができるように「地理+α」というコーナーを設けております。150ページ、151ページをご覧ください。学習内容を深める「自由研究」「チャレンジ地理」や地理的学習を進めるに当たって必要な技能を系統立てて習得する「スキルup」というコーナーを掲載しております。162ページをご覧ください。章全体のまとめとしてオリジナルの分布図を作成するようになっております。他の章ではランキングや関係図づくりなどの方法でもまとめるようなことができるようになっております。以上が地理的分野でございます。

続きまして、歴史的分野について申し上げます。

歴史的分野については、各発行者とも、「鉄砲とキリスト教の伝来」について記述している単元の特に「南蛮人渡来図屏風」、「火縄銃」、「ザビエル肖像画」を共通の資料として取り上げている分野を例に説明いたします。

歴史的分野については、7者ともに、ほぼ見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。学習課題が左上、学習内容のまとめが右下に設けられておりますが、各者で特色があります。2段階で更に深めるように設定されているものもございます。

ではまず、東京書籍から参ります。106ページ、107ページをご覧ください。各者共通の資料「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」のほか、地球儀・時計、天正遣欧使節など豊富な資料が掲載されております。「キリシタン増加」のグラフを提示し、歴史的事象を読み取らせようとする意図が特色となっております。また、歴史的な「見方・考え方」においてどのように資料を読み取っていくかを示すコーナーが提示されております。ここでは上の南蛮人渡来図屏風について、比較することを中心にどのような人々が、どのような目的で日本に来ていたのかについて考えさせ、授業への興味を深められるよう工夫されております。学習課題の解決については、地理と同様に、左上に学習課題、右下の「チェック」で学習事項の確認、「トライ」で課題を解決した内容について説明をする2段階となっております。98ページ、99ページをご覧ください。単元全体で見た場合には、年表や資料を示し、「みんなでチャレンジ」で小学校の学習も振り返りながら単元全体の探究目標を設定します。144ページ、145ページをご覧ください。この2ページで基礎・基本のまとめ、探究課題の解決を

行います。また次の146ページ、147ページのように、まとめの活動を様々な思考ツールを使いながら深く学べるようになっていきます。他にも「歴史にアクセス」など多種多様な課題の追究を深めるコラムが随所に掲載されております。

次に、教育出版でございます。104ページ、105ページをご覧ください。各者共通の資料のほかに、地球儀、天正遣欧使節が掲載されています。「キリスト教の広まり」の図で本文の西日本まで広がっていったという内容を地図でも確認できることが特色です。また、ザビエル像のように小学校で学習した人物資料にマークをつけたり、その資料が重要文化財や国宝であること示すマークを表示したりしております。学習課題の解決については地理と同様で、学習した事項の確認をする内容と自分の言葉で表現する内容に分かれていますが、このページでは中単元にあたる節の内容を提示されたキーワードを使って説明するようになっております。

142ページ、143ページをご覧ください。このページが大単元に当たる章全体のまとめになります。年表や地図などを使った基礎・基本のまとめ、学習した内容を説明するなどして、学習内容の定着を図っております。教科書全体を通して、「身近な地域の歴史を調べよう」が6テーマ、「歴史的を探ろう」が14テーマなど、見開き2ページの特設コーナーを掲載し、深い学びを実現できるように工夫されております。

次に、帝国書院でございます。100ページ、101ページをご覧ください。各者共通の中の、南蛮人渡来図屏風で資料活用の視点が示されています。また、「地域史」というコラムで「鉄砲づくり」や「銀の動き」の資料により、地域の歴史や世界の動きにも目を向けられるようになっていきます。学習課題と解決については、地理と同様に、「確認しよう」で本文や資料から見つける内容と、学習した内容を自分の言葉で表す「説明しよう」の2段階となっております。また、このページの最後には、節のまとめについても学習できるようになっております。

146ページをご覧ください。章全体の問いに対するまとめを年表や地図を使った知識の定着を図る内容と、「考えを整理する」「考えを深める」「説明する」のステップで思考力・判断力・表現力を高められるように工夫されています。122ページをご覧ください。「タイムトラベル」のコーナーでは、時代の変化を読み取れるように、見開き2ページを使ってイラストが描かれ、本文との関係が分かるように記載されております。「歴史を探ろう」や「多面的・多角的に考えてみよう」など、テーマ学習や豊富なコラムを掲載しております。

次に、山川出版社でございます。112ページ、113ページをご覧ください。各者共通の資料のほかに当時の宣教師が作成した地図で石見の銀山に着目させ、本文中で太字にしていたり、日明貿易で取り上げられることの多い倭寇図巻という資料を取り上げたりするなど、史実

に従って細かい資料を掲載しております。1時間ごとの学習課題は2つずつ挙げられていて、本文や資料から学習をしていきます。この課題のまとめとなる学習は準備されていませんが、ステップアップで学習を深めるようになっております。152ページ、153ページをご覧ください。章のまとめは、学習した内容を表にまとめる形で整理するようになっております。102ページをご覧ください。章の初めの見開きのページの日本史と世界史の年表とそれぞれの図版を載せております。110ページをご覧ください。世界の動向を示す地図を掲載し、随所に日本史と世界史を関連付けて考えさせる工夫が見られます。「歴史へのアプローチ」や「歴史を考えよう」など、地域の学習を深める内容や資料を細かく読み取る方法が掲載されていて、高等学校とのつながりを意識して作られております。

次に、日本文教出版でございます。116ページ、117ページをご覧ください。ここではヨーロッパ人の来航と信長の統一事業を1時間として構成しております。共通資料の「南蛮人渡来図屏風」や石見銀山については、秀吉の海外政策の中で紹介され、キリスト教・鉄砲と信長、貿易・海外政策と秀吉とセットで学習する形になっていて、世界の動きと日本のつながりを違う形で示しております。学習課題に「見方・考え方」が掲載され、学習の視点が示されております。また、主に右側のページの内容について「深めよう」で学習を深める構成となっております。学習課題に対するまとめは最後の「確認」で内容を説明するようになっております。

106ページをご覧ください。章全体では大きな絵図などの読み取りから目当てを示しております。特にこの第4編の江戸図屏風は他の図に比べ特に大きくなっております。156ページ、157ページをご覧ください。この2ページで基礎・基本の確認と時代の特色を説明する学習に進んでいきます。全体を通しては、「でかけよう地域調べ」「歴史を掘り下げる」「先人に学ぶ」など見開き2ページの特設コーナーを掲載していることと、1時間に見開き2ページにこだわらず、大きめの写真資料などを載せている点も特色でございます。

次に、育鵬社でございます。112ページ、113ページをご覧ください。各者共通の資料が掲載されておりますが、特に113ページには、「歴史ビュー」があり、ここではザビエルなど宣教師が日本で感じたことやザビエル像について詳しく解説している所が特徴になっております。また、小単元名の横に28の番号が示されており、これは章や節ごとでなく、歴史学習全体で通番になっているところが特色となっております。学習課題を左上に示し、学習の最後にキーワードを活用して説明させたり、まとめとしたりして、学習を深められるように工夫しております。104ページをご覧ください。各章の導入ページとして鳥の目で見える「歴史絵巻」があり、小学校で学習した内容を基に、これからの時代の学習の大きな流れを読み取るこ

とができるようになっております。106ページの「虫の目で見ると」では学習のポイントとなる絵図を示して興味・関心を高めております。152ページ、153ページをご覧ください。章のまとめでは年表や地図などで基礎・基本を確認し、グラフや絵図などで読み取り、説明することで学習内容を深め、定着させる構成になっております。154ページをご覧ください。単元内容をより詳細に発展させた読み物資料があり、ここにある「なでしこ日本史」のほかに「歴史ズームイン」「人物クローズアップ」など9種類の特集が掲載されております。

最後に、学び舎でございます。92ページ、93ページをご覧ください。資料を大きくし、そこから様々な読み取りができるように工夫しております。火縄銃のしくみの図や倭寇との関連、火縄の材料などの記述が細かく説明がされているところが特色です。他者で扱っている「南蛮人渡来図屏風」はポルトガルの進出の単元に掲載し、ここでは別の「鉄砲を使った戦い」「南蛮屏風に描かれた港町」の屏風を載せております。1時間の学習課題を左上で提示し、学習に関する興味を深めるコラムを掲載しています。側注、グラフ資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されております。104ページをご覧ください。章全体の学習では、始めに章のテーマを示し、まとめで年表と地図で基礎・基本の確認、章で学習した内容の発表を行い、各時代の特色を自分の言葉で表現できるように工夫されています。また、最後の「歴史を探検する」のコーナーでは、インターネットで検索した屏風絵を細かく見ていく視点をあげております。全体を通して、背景となる世界史を充実させ、日本と世界の歴史や文化が相互に分かる構成となっております。

次に公民的分野について申し上げます。

各者とも、「地方自治」について記述している単元を例に説明いたします。

公民については、6者ともに、見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。学習課題が左上、学習内容の振り返りが右下に設けられております。振り返りについては、各者で特色があります。2段階で更に深めるように設定されているものもあります。また、単元ごとのまとめや振り返りに各者で特色があります。

まず、東京書籍でございます。110ページ、111ページをご覧ください。この2ページでは5つの資料と1つのコラムを載せています。「地方自治と私たち」単元全体では写真資料、図、グラフ、表など、28の資料が掲載されております。ページの左端にあるのが、この単元の課題になります。章全体の探究課題となっている「平和な社会を築くために私たちはどのように政治に関わるべきでしょうか」を解決するためのステップの1つでございます。本時の学習課題は左上に示され、右下に「チェック」と「トライ」の2つのまとめの学習が準備されて

います。これは、学習問題を解決するために、学習の最後に取り組む課題です。「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認した上で、発展の「トライ」に取り組みます。112ページ、113ページをご覧ください。「公民にアクセス」という本文に関わる内容を取り上げることで、現在の課題と解決への取組や学習内容を主体的に進めることができるよう工夫されています。120ページ、121ページをご覧ください。120ページでこの単元の探究課題を地理や歴史で学習した思考ツールを使ってステップに沿って整理します。121ページで基礎・基本を確認しています。次の122ページ、123ページをご覧ください。まとめの活動で、探究課題の解決につながる学習を行い、より深く学べるように構成されています。

次に、教育出版でございます。114ページ、115ページをご覧ください。この2ページでは、グラフ、写真、図、表など、6個の資料が掲載されています。「地方自治と住民の参加」単元全体では24の資料が取り上げられています。左側には単元の課題が挙げられ、章全体のテーマ「日本国憲法に基づいて行われている我が国の政治はどのような仕組みと働きをしているのだろう」にアプローチするよう工夫されています。1時間ごとの学習課題は左上に、その本文と資料からこの課題解決を行い、右下の「確認」と「表現」で学習の定着を図ります。122ページをご覧ください。「言葉で伝え合おう」は学習を深める表現活動を行うもので、教科書全体で6つのテーマが準備されています。ここではプレゼンテーション、他にはシミュレーションやディバードなどの手法が紹介されています。124ページ、125ページをご覧ください。章のまとめとしてステップ1で基礎・基本事項を確認し、ステップ2で資料を使って学習を深めます。ここではジグソー法も紹介されています。126ページをご覧ください。ステップ3で章全体のテーマに対するまとめを行っていきます。この他にも、興味・関心を広げていく「公民の窓」や、技能表現を養う「公民の技」のような豊富な内容が盛り込まれています。

次に、帝国書院でございます。93ページ、94ページをご覧ください。この2ページに写真、図、グラフ、表など7つの資料が配され、「地方自治と私たち」単元全体で26の資料が掲載されています。このページの左上の資料には資料活用の視点が示されています。単元全体の課題は一番上に提示され、1時間ごとの学習課題は左側、本文や資料で課題の解決を図り、「確認しよう」「説明しよう」で学習のまとめをする構成になっています。学習を進めるために実社会の動きを解説した「公民プラス」があり、教科書全体では25テーマが掲載されています。また、ページの下で小学校・他分野との関連や章の学習を始めに振り返ることができるようになっております。100ページ下をご覧ください。単元の課題を解決するため

の手立てが提示されております。101ページ、102ページをご覧ください。先ほどの100ページのほかに、この「アクティブ公民」のように、学習した内容を基に課題を提示し、多角的・多面的に解決を図ることでより深く学習するとともに技能を習得する「技能をみがく」のコーナーが設けられています。103ページ、104ページをご覧ください。「技能をみがく」で思考ツールの解説、「先輩たちの選択」と学習を深める内容が豊富に掲載されております。105ページ、106ページをご覧ください。章のまとめで、民主政治について学習内容の確認と考えを深めるように構成されるなど、豊富な学習内容が準備されております。

次に、日本文教出版でございます。108ページ、109ページをご覧ください。ここでは8つの資料が掲載されております。「くらしを支える地方自治」単元全体では、写真資料を中心に、グラフ、図、表など、28の資料が掲載されております。学習課題は左上に提示され、見方・考え方を付し、参考となる視点を挙げております。また「深めよう」でより深く学ぶ課題も提示しております。まとめは、右下の「確認」でキーワードを使って本文の内容や資料を基に説明をします。本文の下には、地理的・歴史的分野との関連についての記載、学習を深める課題が提示されております。116ページをご覧ください。この単元では「明日に向かって」で社会参画の手がかりを示し、学習内容を深め、まとめる学習が準備されております。この「明日に向かって」は教科書全体では8テーマが掲載されています。118ページ、119ページをご覧ください。学習した内容を基に社会の課題を考察し、社会参画意識を高める「チャレンジ公民」が掲載されています。「チャレンジ公民」は教科書全体で4テーマ掲載しております。120ページ、121ページをご覧ください。学習の整理と活用で基礎・基本の確認と多角的・多面的に考察するための学習に取り組めるよう工夫されております。この他に、深い学びを実現するため活動する「アクティビティ」38項目とコラム「公民プラスアルファ」22項目が掲載されております。

次に、自由社でございます。112ページ、113ページをご覧ください。内容ごとに章や節に分かれていますが、授業は1年間の内容別の通番で記されています。この内容は公民的分野の授業の39番目の学習であることを示しております。資料の数を絞って学習内容を焦点化しています。「地方公共団体の仕組みと課題」の節では写真資料、グラフ、図、表など、2時間の扱いで5つの資料が掲載されております。左上に学習課題を提示し、本文の内容や「ここがポイント」から解決するようになっています。116ページ、117ページをご覧ください。この「もっと知りたい」では、前時までに学習した内容について写真や図表を示し、見開き2ページの読み物資料を掲載しています。ここでは歴史的災害の様子について解説し、防災の観

点から地方自治と住民の役割について考えるようになっていきます。118ページ、119ページをご覧ください。発展的な学習として「アクティブに深めよう」が掲載されていて、ここでは総合的な安全保障を文章でまとめるテーマが示されています。教科書全体では8テーマが挙げられています。章のまとめは120ページのように基本用語と課題文で学習する形になっています。教科書全体では、学習内容を深める「もっと知りたい」「ミニ知識」のコラムが掲載され、現在の課題や歴史的な意味などについて生徒が考えられるようになっていきます。

最後に、育鵬社でございます。106ページ、107ページをご覧ください。このページでは5つの資料が提示されています。「地方自治と住民」単元全体では写真資料、グラフ、図、表など19の資料が掲載されております。1時間の学習課題は左上に示され、本文・資料をもとに解決します。また、学習した内容を話し合いや説明することで、自分の言葉で表し、定着できるような課題が最後に挙げられております。また学習を深められるように、授業に関連する内容を紹介する「学習を深めよう」が掲載されています。これは教科書全体で42テーマあります。この他、協働的な学びを実践する「やってみよう」のコーナーも17項目と豊富に用意されております。76ページをご覧ください。章の初めに「政治の入口」としてロールプレイングで学習に対するイメージを持たせ、興味・関心を高めるようになっていきます。学習のまとめについては、112ページをご覧ください。「政治のこれから」と題して、身近な課題解決の案を出し合い、共同的に学習を進めていくよう工夫されております。その中で「スキルアップ」のコーナーを設け、技能の習得を図っています。114ページをご覧ください。基本事項の整理が掲載されております。

続きまして、地図について申し上げます。

各者とも、「北アメリカ州」について記述している単元を例に説明を申し上げます。

まず、東京書籍でございます。69ページ、70ページをご覧ください。基本図では、縮尺や図法、北アメリカの地球上の位置を明記しております。71ページ、72ページをご覧ください。資料については、「基本資料」と「テーマ資料」とを区別しており、「基本資料」としては、自然環境に関する内容と言語・歴史など教科書の学習に関連して押さえるべき知識としての資料を掲載しております。「テーマ資料」としては、農業分布・工業分布、輸出入に関連したグラフ、問題解決学習として活用する資料を用いているのが特色でございます。72ページの農業分布・工業分布の資料は教科書とも関連付けて掲載されています。73ページ、74ページをご覧ください。地図に親しみを持ち、活用しやすくするために、鳥瞰図や関係する写真を掲載することで視覚的に読み取れるよう工夫がされております。また、ICT活用マーク

が掲載され、デジタルコンテンツを利用した、学習に取り組める工夫が見られます。国土地理院のデジタル地図である「地理院地図」を参照したり、一般図をダウンロードすることができます。冊子の大きさについては、教科書と同じサイズという形になっております。

次に、帝国書院でございます。基本図では、縮尺や図法、北アメリカ州の地球上の位置を明記しています。必ず同緯度、同経度の同縮尺の日本を掲載しています。ニューヨークは青森県と同緯度であること容易に読み取れると思います。

基本地図だけでなく、資料地図にも活用の視点が挙げられ、諸課題の解決に向けての力を養うための工夫がなされているところも特色です。このページのニューヨークの鳥瞰図も見やすくなっていると思います。61ページ、62ページをご覧ください。北アメリカ州の鳥瞰図で自然地形や土地利用、降水量等の情報を掲載しています。問題解決学習として活用する資料も豊富に掲載されております。64ページをご覧ください。資料の中に各地域と日本との結びつきを示す資料を必ず掲載しているところが特色でございます。また、二次元コードが掲載され、デジタルコンテンツを利用した、資料活用能力を高める工夫も見られます。学習を深める資料や単元に関連した動画を見ることができます。冊子は教科書よりも大きなサイズとなっており、豊富な資料が見やすく配置されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。まず、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、この3分野に関わりまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 歴史的分野ですが、説明の中にもキーワードとして出てきましたが、草加の生徒たちが主体的・対話的で深い学びを実現するために、教科書で特に工夫されている特徴的なところを、幾つか挙げていただきたいと思います。

○説明員 主体的・対話的で深い学びでは、生徒による活動的な学びが必須のものとなっております。問いが単元を貫いていることや、具体的な話題から授業内容へ関心を持てることなどが考えられると思います。各者ともそうですが、章の取組の中に単元を貫く探究課題が設けられています。探究課題を節ごとにステップを追っていきます。そして、1時間ごとの学習課題を解決することにより、単元を貫く学習課題が解決できるような形になっています。先ほど幾つかの発行者でも申し上げましたが、章のまとめをどんなツールを使って、学習を深めていくかというところに特徴がございますが、多くの教科書がまとめ方について形を変えて学習を深められるような形になっていると思います。

○宇田川久美子委員 地理や公民、あとは地図にも関連があれば教えてもらいたいのですが、持続可能な開発目標、SDGsを世界的にも取り組んでいかななくてはならないし、中学生にも意識していただきたいと思うのですが、この関連の事項は教科書ではどのようなになっていますか。

○説明員 多くの発行者がいわゆるSDGsについて記述されております。SDGsは、ご存じのように、2015年に国際社会の共通の目標になり、17の目標と169の具体的目標からなっております。教科書では、3年間の社会学習を貫く視点として多くの会社を取り上げております。地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習を通して、様々な見方や考え方から課題を解決する力を養えるようになっております。そういう意味では、公民の最後に特集として設けてあり、学習の内容の中に取り上げられるような形で表現されています。

○宇田川久美子委員 特徴的にまとめられている教科書はありますか。

○説明員 教科書の始めの方にSDGsについての全体的な内容が説明されている教科書が多くあります。それか最後の公民のまとめのところで取り組んでいくような形、自分の意見をもつような形で取り組まれている教科書が多くなっています。

○宇田川久美子委員 地図には反映されていますか。

○説明員 地図についてもそれぞれの資料で、基本的ないわゆる資料というものと、これほどの発行者もそうですが、テーマを学習するページがございます。その資料の中でSDGsの視点で解決できるような課題が設定されております。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の生徒の実態のところ、社会的事象等から学習課題を見出し、課題解決をしていくということで、先ほどありました探究学習ということですが、内容的には、地理や歴史、公民で、かなり生徒の興味・関心やそういうものから、これを地理、歴史、公民を1つにして同じような形で説明されていることに何か無理はあるのでしょうか。そうではなくて、日本から世界に行く地理的なこと、あるいは、時間的にかなり長い中での歴史的なもの、あるいは、今のことを見つめていく政治のところでも、同じように各教科書でやれているのでしょうか。その辺が説明では分かるのですが、実際に教科書を使って生徒たちが学ぶときに、その辺の探究というか、学習課題に本当に向かい合っていけるのかという辺りにちょっと不安を感じるのですが、いかがでしょうか。

○説明員 社会的な見方・考え方を初めに触れさせていただきましたが、課題を追究したり解決したりという格好において、社会的事象の意味や意義、特色や郷土の課題などを考察したり、社会に見られる課題を把握して、それを解決に向けて考察したりする際の視点などがございま

す。地理においては、例えば、地域的な特色、共通的な特色、又は、地域間の特色などを相互に見ていきます。歴史では、時代の流れの中で比較したり共通項をもって次の時代にどんな影響があったかなどについて、見方・考え方をもちながら働かせて学習を深めます。この学習をもって公民的な学習の中で、それぞれの現代的な課題について、見方・考え方をもちながら学習したような地域的な特色や比較する手法、また、それぞれを共通的な手法から見ていくような形で学習し、最終的に深められるような形を取っているというのが社会科の考え方でございます。

○村田悦一教育長職務代理者　そういう意味でいくと、いかに学習課題を生徒がつかめるかということで、今、実際には地理や歴史は1、2年で、公民は3年でという形でやっているわけですね。実際にやっていくときには、例えば、地理や歴史を並行でやっていくときに、教科書はやはり同じものがあるのか、今の形でいけば、歴史的な捉え方や地理的な捉え方で教科書発行者の特徴等もあるのですが、その辺のところは特にこの地理や歴史を並行で2年間やっていくときに、もし教科書発行者が違った場合に、学習課題を作っていくときに、指導上かなり困難になってしまうのか、その辺はいかがですか。

○説明員　教科書が違っててもできなくはないと思います。ただ、それぞれ教科書が地理、歴史、公民について、先ほどお話をさせていただいたように、同じような学習課題を設定し、まとめの項目も同じようにしております。同じ編集方針に基づいて学習課題、まとめの提示の仕方、いろいろなコーナーやコラムなどがあるのですが、この扱いや資料の配置を見ていただいて特徴があったと思うのですが、その配置などが同じような編集方針で発行者が作っておりますので、できれば1者にすることの方が望ましいとは思っています。

○村田悦一教育長職務代理者　具体的に公民のところでは、いわゆる拉致問題、報道等でもいろいろありましたが、これについては、公民6者では、拉致問題については、何かこういう取り扱いや学習課題、探究の仕方など、何か特徴的なものはありますか。

○説明員　公民では、国際社会の課題という単元で全ての教科書での記述がございます。記述の内容に差異は若干ございますが、全ての発行者で記述がございます。また、歴史で全ての単元、現在の日本と世界を扱う最後の単元で記述がございます。

○村田悦一教育長職務代理者　具体的に拉致ということで私が見たときに、公民6者で索引、歴史でも地理でも最後に重要語句というのですかね、1者だけが拉致を載せていなかったところがあるのですね。他のところは拉致について1項目から3項目ぐらいあるのですが、その辺はいかがでしょうか。

○説明員　教科書の記述の中に扱いとしてなかったとしても、写真資料とそれを解説するよう

な形で出ておりますので、あと、取り上げ方によって学習させることができるのではないかと
いうふうに思います。

○村田悦一教育長職務代理者 確認ですが、最後に索引がありますよね。一般的に索引という
のはどういうものが載っているのでしょうか。一般論として索引にはいろいろな言葉が出てい
ますよね。例えばこの発行社はアイヌ文化から、「あいうえお」と続いています。索引に載せ
る、これは公民に限らず、歴史も地理もこういうものですが、索引に載る言葉というのはどう
いう言葉が載るといふふうに生徒は理解するのでしょうか。あるいは、教科書を使っていくと
きには、基本的には重要語句というように、大事な言葉と理解しているのですが、そういう理
解でよろしいのでしょうか。

○説明員 教科書の中で特徴として取り上げられる内容について説明をするための資料とし
て載せていると思います。

○加藤由美委員 選挙権が18歳になりましたが、選挙権に関して何か特徴はありますか。

○説明員 公民の教科書で全ての発行者で選挙については扱っております。選挙の課題など
についても扱っております。中には、いわゆる若者の選挙の投票率の変遷などについてグラフ化
されているものもございまして、それぞれ教科書で投票行動を促すような記述等がされてい
ると思います。選挙権に関しては大切な内容でございますので、先ほど見ていただいた地方自治
のところですが、政治参加の部分で記述がございまして。

○川井かすみ委員 QRコードなどデジタルコンテンツについて、各者何か特徴がありました
ら教えてください。

○説明員 QRコード等は、いわゆる国のGIGAスクール構想もございまして、多くの教科
書が取り扱っております。例えば、地図帳でいえば、2者とも取り扱っております。そのコ
ードを読み取ることによって国土地理院の地図のところに行くことができたり、白地図を出し
たりすることができるような形になっております。コードを読み取りますと、NHK for
Schoolの画像資料の方に飛べるようになってございまして、そこから関連するものを映
像資料として見ることもございます。また、教科書につきましては、そこで資
料を開けることによって、いわゆる地域の物産的などところに、また、学習上の課題に飛ぶこと
ができる、そんな工夫をされている教科書もございまして。どこの教科書を見ても、そこはかな
り多くの教科書がQRコード等を載せて、生徒たちがタブレットで学習できるための工夫がさ
れていると思います。

○宇田川久美子委員 竹島等の領土問題については、教科書の取扱いはどのようになっていま

すか。

○説明員 地理では、4者ございますが、全て竹島、尖閣諸島、北方領土を取り上げております。写真や地図で掲載されながら、日本固有の領土であるというように記述がされております。また、公民では、主権国家を取扱う単元で7者全てが取り上げておりまして、こちらも同様の固有の領土であるということで記述がされております。

○高木宏幸教育長 先ほど、草加の生徒たちの実態を踏まえた観点ということで、繰り返しになりますが、学習問題の追究、解決、活動の充実というところで挙げられておりますが、特に地理や歴史、公民もそうですが、様々な資料があって、その資料の中で問題、課題を見出して、また解決の手立てを見出すということが非常に重要だと思います。各者様々ですが、先ほど説明した中でいくと、資料の量や、草加の生徒たちにとって資料が豊かであることはいいのですが、それを使い切れない、または少なすぎると、課題解決にも結びつかないというような場面も考えられますが、各者のそれぞれ地理、歴史、公民にある資料の量の問題、質の問題、この辺についてはどのように捉えていますか。

○説明員 先ほど歴史の教科書の説明のときに、例えばこの資料はどこの発行者も共通している資料ですよということを申して、南蛮図屏風や火縄銃等々がそれに当たるわけですが、それらがどのような扱い方をされているかという、また、それを補足する別の資料としてどういう資料が掲載されているかという部分かというふうには思います。資料を見たときに、例えば、それがいつの資料だろうか、どういうふうな引用資料だろうかというところからまずスタートします。おそらく小学校段階でも同じようにやっていきます。次に、その資料やどんな資料が意味をもっているのか、どういうふうに我々の生活につながってくるのか、どんな影響が地域で挙げられていたのかというような内容を学習していくこととなります。こうして知識を汎用化、どんどん広げていくこととなります。次に、ここからが難しいところですが、その資料をきちんとどんな内容か、そして、その影響を読み取った後で、それについて自分の考えを持てるかどうか。それから、この資料について、どういうふうに多面的・多角的な考察を加えていくかということが大切なところでございます。いろいろな資料を使うことによって多角的に見ていったり、また、多面的に見ていったりするようなことができるようになっていきます。資料の選び方は、それぞれ生徒たち、もちろんこれは教員の方が教えをして、課題を立たせるわけですが、その課題の立て方によって、どの資料をどういう読み取り方をして、どういう内容であると考えて、どのような考え方もつのか、どういうふうにつなげていくかということについて考えると、ある程度の量の資料があった方がいいと思います。

○高木宏幸教育長 社会科の目標の中に課題追究や解決の活動を通して、いわゆる広い視野をもってグローバル化するこの国際社会に生きる、主体的に生きる子どもたちを育てていくというような目標があるわけですが、例え、歴史の中で、先ほど幾つか日本の歴史と同時に世界のその時代の歴史の状況を対比させているような説明もありましたが、この辺の扱いは、歴史に関して、各者同じでしょうか。

○説明員 基本的には学習指導要領に則って行っておりますので、同じだと思います。扱い方によって、年表を先に出しているところもあれば、教科書の中に、それぞれのページの中にこの教科書も年表を入れています。今学習しているのはこの時代の年表ですよというようなところが入っています。その中に、例えば世界の内容を盛り込ませるといったところがあったり、また、それを章全体の中で見せていくような形が歴史のところではございます。ただ、基本的には、内容は日本の歴史についての記述が多くありますので、若干世界史的な細かな内容については、我々の学習した頃と比べるとやや分量的には少なくなっているかなというふうには思います。ただ、社会の動きとして、世界と日本を同じところで見せていくというのは大事な視点でございますので、授業を進めていくときにそれを一緒にしてやっていかないと、特に取り上げさせていただいた部分が、南蛮図屏風等を見ていただいたら分かるように、世界史とどうしても一緒でないと学習できない部分がございます。当然、その記述もポルトガル等の世界進出のところからスタートして書かれておりますので、その大きな流れで日本史を扱えるような形になっています。

○加藤由美委員 東京書籍の説明の中で教科書と関連されているとの説明があったと思いますが、今使っている教科書は地図だけが帝国書院で、何か違うところや不都合など、何かありますか。

○説明員 教科書は東京書籍で、地図が帝国書院という形になっています。帝国書院の地図は、教科書の発行者がどれであっても適応できる内容でございます。図やグラフ等も充実しております。東京書籍も同様ですが、多くの資料が付されております。また、資料についても、同じような資料も配置されております。また、地図を見る視点や学習課題も資料の中に記載している内容などがございまして、主体的に地図や資料を活用して問題学習に取り組める工夫がされていると思いますので、地図帳が違ってもしっかり大丈夫だと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 地図で資料の活用能力という形で、例えば、ここに日本の統計というのが最後に出ていますが、これは2018年。世界ですと2017年。これがそのまま来年使われるときに、ここだけ変わるのかよく分からないのですが、当然、これは何年間か使

うわけですから、新しいものは教科書発行者から追加で来るのか、あるいは補助資料というか参考書を生徒が買って、あるいはインターネット等で調べていくのか、こういう統計等の新しい資料については実際にどのように、教科書発行者との関連はどうなっていますか。

○説明員 統計資料につきましては、その都度、発行年ごとに新しい表等が取り上げられると思います。また、内容として、例えば、最近は少ないですが、国が変わってしまうようなときがございます。そこについては、資料、また別のものが入られることもございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより中学校国語、書写、社会の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図の教科用図書に係る採択に入ります。

採択は無記名投票により行います。これから委員の皆様には投票用紙を配付いたします。採択すべきと思う発行者の投票欄に1者だけ○をお付けください。記載は、ボールペンでお願いします。なお、複数の発行者に○を付れたり、○以外の印は無効となりますので、ご注意ください。

書き損じをされた場合、はっきりと分かるように二重線で消していただき、新たに○をお付けください。

投票は宇田川委員から順に時計回りで、記入した投票用紙を全て重ねて縦に半分に折った上で、お入れください。何かご質問はございますか。

それでは、投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、宇田川委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、宇田川委員と事務局で確認をお願いします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

国語、光村図書出版株式会社 6 票ですので、光村図書出版株式会社といたします。

書写、東京書籍株式会社 3 票、教育出版株式会社 3 票、同数でございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、教育長による決定となります。私は、教育出版株式会社を選ばせていただきましたので、教育出版株式会社といたします。

社会の地理的分野、東京書籍株式会社 6 票ですので、東京書籍株式会社といたします。

社会の歴史的分野、東京書籍株式会社 6 票ですので、東京書籍株式会社といたします。

社会の公民的分野、東京書籍株式会社 6 票ですので、東京書籍株式会社といたします。

地図、東京書籍株式会社 1 票、株式会社帝国書院 5 票ですので、株式会社帝国書院といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長　ここで午後 1 時まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長　それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長　「中学校 数学」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 数学〉

○高木宏幸教育長　説明員の方、お願いいたします。

○説明員　数学科の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態でございますが、小学校算数科の学習との連携を図り、数学的活動の楽しさや良さを実感させることにより、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成することが課題です。

基礎・基本をより確実に定着させると共に、それらを活用して、考えたり、数学的に表現したり、説明したりする力をより高めると共に、小中の学びの一貫性や 3 年間を通した学びのつながりを大切にしたい指導が必要であると言えます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、このような実態から、「発

達や学年の段階に応じた指導」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等について、各発行者の第1学年を例にとり、ご説明申し上げます。

東京書籍につきましては、初めに、9ページをご覧ください。0章として「算数から数学へ」という特設の章が設定され、小中のつながりを意識した構成になっております。

10、11ページでは、右の帯で「問題をつかむ」から「深める」まで、学習の進め方を確認する工夫がなされております。

次に、145ページをご覧ください。「比例と反比例の利用」で待ち時間を予想する問題です。このように各章で「深い学び」のページが設定され、日常の事象や社会の事象から問題を見出し解決する活動や、数学の事象から問題を見出し解決する活動などが、取り上げられています。

次に、61ページをご覧ください。「文字と式」の単元で、本棚を作るのに必要な棒の本数を求めることがイラストで示されています。次の62ページでは本棚の底の面について求める問題が示され、73ページでは本数を求める式について、そして81ページでは立体にして、初めの問題である本棚を作るために必要な棒の本数を求める問題に発展されています。このように61ページの扉の問題を順を追って解決することが、この章全体のストーリーとなっています。

次に、大日本図書につきましては、初めに、280ページをご覧ください。「小学校算数の振り返り」で、小学校での既習事項がまとめられており、小中の連携を意識した構成となっております。

次に、186ページをご覧ください。これまで学んだ作図を使って「 75° の角をつくろう」という発展的な課題です。ページの両端に「問題を見い出そう」「解決のしかたを探ろう」「解決しよう」「深めよう」と表示されており、一連の問題発見・問題解決の流れを身に付けるための工夫がなされています。

次に、96ページをご覧ください。「ふり返ろう」では、この章で学習した内容が身に付いたかどうかを確認するため、巻末の解答で自己評価できるようになっています。97ページの「力をのばそう」では、発展的な問題に取り組めるようになっています。98ページの「活用・探究」のページでは、学習した内容を活用して探究する問題に取り組ませています。このように、学びのつながりや広がりを重視しております。

次に、学校図書につきましては、初めに、10ページをご覧ください。1章から3章までの

学習内容に関連した算数の既習事項を「ふりかえり～算数から数学へ～」としてまとめてあります。

このように、領域ごとに小学校での既習事項を振り返ることで、小中の連携を意識した構成となっております。

次に、156ページをご覧ください。「数学的活動」としてページの端に「問題を見つけよう」から158ページの「視力と距離の関係を調べよう」まで、問題発見・問題解決の流れが示されています。数学的活動の中から、一連の問題解決の流れを身に付ける工夫となっております。

次に、139ページをご覧ください。「比例のグラフ」の学習ですが、鍵のマークでこの節の目標「比例定数や変域を負の数まで広げたときの比例のグラフについて考えよう。」が示されています。

そして、142ページでは、学習後に「どんなことがわかったかな」として、この節での学習で分かったことを簡潔にまとめております。さらに、分かったことを活用して問題を解決するための「次の課題へ！」と発展させています。

次に、教育出版につきましては、初めに、266ページをご覧ください。「学びのマップ」として、小学校で学習した内容がどのように中学校での学習につながっているかが示されています。1年生の学習が終わった後でも、各章の学習前でも使える資料となっております。

次に、121ページをご覧ください。ページの端に問題解決の流れが示されています。中学生キャラクターの対話から、生徒の考えを深めさせる工夫がなされています。また、数学的な考え方が示されており、巻頭にある「数学的な考え方」との関連が図られています。

次に、8ページをご覧ください。ここでは、小学校での学習を振り返りながら「数学的な考え方」をまとめてあります。問題を解決するときや問題を発展させるときなど、大切な見方や考え方が示されているので、学習の中で随時このページを活用することができます。

次に、新興出版啓林館につきましては、初めに、「みんなで学ぼう編」46ページをご覧ください。「ふりかえり算数」として、小学校での既習事項が枠囲いで示されており、小中のつながりが意識できる工夫が見られます。

次に、「みんなで学ぼう編」100ページをご覧ください。「方程式の利用」について、ステップ1では、場面から問題を設定し、ステップ2では、見通しを立てて問題を解決し、ステップ3では、問題を広げたり、深めたりする活動ができるように工夫されています。

さらに、学習の中で働かせた「数学的な見方・考え方」を各ページの下に虫眼鏡のマークで

記載してあり、それが多くのページにあることで、見方・考え方を生徒がより身に付けるような工夫となっています。

次に、この教科書の特色ですが、全体が「みんなで学ぼう編」、「自分から学ぼう編」の2部構成で編成されています。

「みんなで学ぼう編」の表紙の裏をご覧ください。授業で中心として扱うのは「みんなで学ぼう編」で、「自分から学ぼう編」では、学んだことの発展的な内容として、日常生活や社会との関わりを考えることができる題材を扱っています。

次に、数研出版につきましては、初めに、本冊の284ページをご覧ください。こちらでは、「中学1年のまとめ」が小学校の算数の内容と併せて掲載されており、小中の連携が図られています。

次に、14ページをご覧ください。各章の学習に入る前に、その章に関連する既習事項を確認できる工夫が見られます。

次に、124ページをご覧ください。生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら問題を解決する過程を、対話形式でイラストにより掲載されています。活動を行う前の見通しとしても、活動が終わった後の振り返りとしても活用できる工夫が見られます。

次に、この教科書の特徴として、別冊で「探究ノート」が付属しております。「探究ノート」の2ページをご覧ください。この別冊には教科書の内容を深め、学びを発展させるための素材が掲載されています。また、34ページからはワークシートとなっており、直接書き込みながら学習できるように工夫されています。

最後に、日本文教出版につきましては、初めに、8ページをご覧ください。

巻頭の「算数の確かめ」で、特に中学校の学習でよく使う内容がまとめてあります。そして、274ページをご覧ください。こちらは「算数の確かめ【問題編】」として、小学校の学習内容が定着しているかを確認することで、学びの関連が図られるよう工夫されています。

次に、87ページをご覧ください。問題解決の流れを「①見通しをもとう」から「②考えよう」、次のページで「③話し合おう」「④ふり返ろう」「⑤深めよう」、そして「⑥もっと深めよう」で示し、問題を解決し、発展させるための過程が分かりやすく示されています。また、その中でポイントとなる大切な見方・考え方が示されており、思考力の育成が図られています。

次に、301ページをご覧ください。問題解決の過程で、話し合い活動に活用できる「対話シート」が付属されており、切り取ってノートに貼れるようにミシン目や大きさが工夫されて

います。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 算数から数学へ移行するに当たり、数学的活動の楽しさを実感させることにより、意欲を持って学習に取り組む生徒を育成する、ということですが、各教科書でどのようなところに楽しく意欲を持たせる工夫がされていますか。

○説明員 数学的な活動の良さ、楽しさを実感させるためにどのような工夫がされているかについてお答えいたします。

例えば、東京書籍の251ページをご覧ください。数学の自由研究として日常生活や他教科の学習と関連した課題が掲載されています。このように生徒にとって身近な課題を解決することは数学的活動の良さを実感させることにつながります。

また、考えを伝え合うこと、説明することなど、対話的に学習することで、生徒は数学的活動の楽しさを実感することができます。各発行者ともこのような数学的活動を充実させるために様々な工夫がなされています。

○川井かすみ委員 各者それぞれ、ノートが付いていたり、「自分から学ぼう編」ということで自ら学ぶという構成がされていたり、特徴があったと思うのですが、各者の問題の量について何か違いはありますか。

○説明員 各者により、先ほどおっしゃられたような別冊が付いていたり、例えば啓林館であれば表と裏に分かれているなど、書式や形式について若干差がございます。ただ、全体として見たときに、問題の量につきましては、各発行者とも例題、問い、練習問題、補充問題などの形になっておりまして、その問題数や量については必要かつ十分な量が用意されておりますので、特段それほど大きな差があるとは考えておりません。

○村田悦一教育長職務代理者 各者とも小中の連携を図られているというお話がありました。本市でも、幼保小中の一貫という形で取り組んでいます。裏を返すと、特に算数から数学へ移行するに当たっては、算数は分かったが数学は分からない、というような、小中の段差が昔はかなりあったと思います。それを無くそうとしているということは、逆に、まだ無くならないということでしょうか。数学という子どもたちにとっては何か得体の知れないような教科に対し、どうしても難しさを感じるということや、楽しさや意欲がなかなか持てないということが実際あるのでしょうか。

○説明員 算数と数学の一番大きな違いとして、算数は具体的なものが中心になりますが、数学ではそれが抽象化されていきます。例えば、式はもちろん算数でも扱いますし、数学でも扱いますが、それがだんだんと抽象化されていきます。具体的なものからだんだん離れていくというところが、算数から数学へ移行するに当たり、子どもが一番戸惑いや段差を感じるところかと思います。

とはいえ、それは避けては通れないので、その段差を埋めるに当たって、各教科書では、抽象的なものは抽象的なだけでなく、それが社会や生活でどのように関わりがあるのか、ということ指導するための工夫が非常によくされています。今回の新学習指導要領の改訂でも、社会や生活における関わりや、数学の良さや、将来生かされる場面に対する意識を深めるような形となっており、各発行者はそのようなところで工夫されておりますので、確かに段差はあると思いますが、数学の有用性を生徒がしっかりと考えた上で学びを進める、ということについては非常に価値があると思います。

そして、小学校から中学校への段差をなるべく無くしていくために、それぞれの発行者では、小中の連携という部分において以前よりもかなり工夫されておりますので、それに基づいた指導をしていくことが今後求められていると考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 関連してですが、この調査研究の観点として、発達や学年の段階に応じた指導についてです。例えば小学校では、少人数や習熟度別、一斉と個別などがあると思いますが、中学校では連携を取りながらも個人差がだんだん出てしまうと思います。そのような個人差や意欲も含め、具体的に発達や学年の段階に応じた指導をするのに適している教科書発行者は、例えば何者あるのでしょうか。7者ともそのような観点においた指導ができるようになっているのでしょうか。

○説明員 小学校で行われているような少人数指導などはもちろん中学校で実施することもできます。ただ、それだけではなく、今、主体的・対話的で深い学びが新しい学習指導要領で推進されておりますが、一斉指導の中でも、特に対話的という部分において、いろいろな考えを合わせ、お互いの考え方を知りながら学んでいくという形式や、勉強が苦手な子に対し教えていくような指導方法も各学校、各教室の中では積極的に行われております。

そして、教科書につきましては、先ほども問題の量についてご質問がありましたが、問題の量はかなり多くあります。実際に学校では、普通に問題を解かせて、特に早く終わった子については、この教科書以外にも、例えばワークブックのような問題集も用意しておりますので、そのような問題を積極的に自分から取り組んでいき、分からない子には先生が個別に指導して

いくという工夫をされております。あるいは、先ほどの対話的な授業と関連して、分からない子に分かる子が教えてあげることで、教える側、教わる側、両方が大事な学びの機会とするような工夫をしていくことで、力の差というものを完全に埋められるかどうかは難しい部分がありますが、できる限りみんなが1時間の授業が終わって、分かったとか、楽しかったというような指導をできるように、それぞれの教科書発行者でいろいろ工夫していると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 もう一点。今、このようなコロナ禍の時代で、学校も休業となると、主体的に学ぶために、どの教科書発行者も、リモート学習などデジタルコンテンツを含め、いろいろなことを想定した中で対応できていくのでしょうか。あるいは、今のこのような非常事態の中では、それに向けて適している教科書発行者が分かれているのか、もしくはその辺りは全部同じで、あとは教師が教科書をどのように生徒に合わせて使っていくかという指導側の問題になるのでしょうか。

○説明員 休校になったときのオンライン学習などは、今後GIGAスクールも始まるので、当然想定をしていかななくてはならないと思っています。各教科書発行者でもデジタルコンテンツは既に全部の発行者が用意しておりますので、活用できると思います。

ただ、現状として、今、教科書によってそのようなことに対応できているか、できていないかという差異は認めることはできないかと思います。したがって、前回の休校で十分にそのような対応ができなかった部分は、これから先も想定されますので、オンラインでの指導を今後準備していかなければならないと考えます。

○高木宏幸教育長 埼玉県の実力・学習状況調査の結果を見ると、本市の生徒は数量や図形についての知識、理解、技能と比べると、数学的な考え方という評価の観点が弱い。これは数学の指導者から見ると、どのように受け止めていて、また教科書における数学的な考え方を伸ばすための特筆すべき工夫で何か挙げられるものがあれば教えていただきたいです。

○説明員 数学的な考え方が弱いことに関しては、私も草加市の数学の教員として非常に残念だなと考えています。計算力を始めとした知識や技能というものは、ある程度練習すれば伸びていきますが、それも新しい学習指導要領においては、生きて使えるようなものでなくてはならないですし、数学的な見方・考え方というものも、数学的な活動の中でしっかりと身に付けさせ、更に豊かにしていくという工夫が求められていると思っております。逆を言いますと、これまでそのようなことが十分にできていなかったと言えます。

ですが、今回の数学の教科書の改訂につきましては、特に数学的活動が非常に重視されています。草加市では「授業の5か条」を推進しておりますが、それぞれの発行者の中で、問題を

見つけ出すところや目標を定めるところから自分でしっかりと考え、それから対話的な活動を行い、さらにまとめと振り返り、そして発展的なことを考えるということができるよう工夫が今回の教科書改訂では非常によくされていると思っています。

ですので、今回の学習指導要領の改訂で教科書が変わっていくことによって、それぞれの学校の中で、先生方がもう一度授業を見つめ直して、この「授業の5か条」を基にした授業をしっかりと行っていくことで、数学的な見方・考え方を生徒が身に付けられるような授業を展開できると私は考えております。

○高木宏幸教育長 それともう一点。これは数学に限ったことではありませんが、授業を終えて、自分で復習し、自学自習して更に深めていくためには、私はノートの取り方が非常に重要だと思っています。教科書を見ると、ノートの使い方をしっかり例示してある教科書と、あまり見受けられない教科書とがあります。もちろんこれは教師の指導内容で幾らでもできることではありますが、教科書の中にしっかり明示して、非常に具体的な例示がされている教科書もあることについて、どのように捉えますか。

○説明員 ノートの取り方、ノートの作り方については、以前からいわゆる最初の授業開きの段階でそれぞれの先生から生徒に指導をしていたところです。そのような中で、ノートの作り方等のページが巻頭に記載されている発行者は、発行者によって若干の違いはありますが幾つかございます。

ノートは授業で学んだことの記録で、それが成長の記録となり、自分が何を分かって、何を分かっていないのかということは、自分で自分の力を伸ばしていく上で非常に大事なことです。ノートの取り方、ノートの記載の仕方は非常に大事だと考えております。

そのような意味で、1時間の授業の流れとして、課題から自力解決、話し合い、まとめ、感想をしっかりと書き、そして板書を書き写すだけでなく、自分の考えや疑問点などを残すよう各教室で指導しておりますので、その中で各自活用できる記載がそれぞれの発行者の中で見受けられるかと思えます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「中学校 理科」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 理科〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 理科の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態でございますが、学習活動と日常生活との関連、基礎的基本的な知識・技能の習得、生徒自身が目的意識や必要感を持って学習活動を行うこと等の課題が見られます。生徒1人1人が知識・技能の確実な定着を図ると共に、日常生活との関連を実感させ、学習の必要性を捉え、探究活動を主体的に取り組み、知識・技能を活用しようとする力を育むことが必要であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、理科で学んだことを日常生活に生かせるように、実感を伴った理解をさせることに課題があるということから、「実社会・実生活との関連」を観点といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等について、先ほど挙げました本市の課題をもとにした観点を含めてご説明申し上げます。各発行者の第1学年の化学分野、特に「水溶液」を中心にご説明いたします。

初めに、東京書籍でございます。110から116ページをご覧ください。生徒が水溶液の再結晶について主体的に探求学習に取り組めるようにするため、110ページでは問題発見を、111ページには、実験、結果、考察を、115ページには活用を提示し、学習活動の流れが生徒に分かりやすくなるよう配置されております。

特に、112ページのように、考察に向けた学習方法を詳しく提示することで、生徒の学びが進めやすくなるよう工夫されております。

また、115ページをご覧ください。飽和水溶液の考え方について「例題」「練習」「確認」の設定や「考え方」での丁寧な解説により生徒1人1人が反復練習でき、基礎・基本の定着が図られるよう工夫されております。

132から135ページをご覧ください。単元末や本文中の「くらしと科学」で日本の伝統文化や優れた研究、日本人研究者を取り上げ、科学が様々な職業に役に立つことで実社会・実生活との関連を図っております。

巻末の付録には、ペーパークラフトを自分で組み立て動かすことにより、地学で重要な空間認知能力を育むことができる工夫が見られます。

次に、大日本図書でございます。122から125ページを順にご覧ください。水溶液から溶質を取り出すため、122ページでの「？」で、生徒が課題を見出し、123ページでの実験観察を通して124ページの分析・解釈、探求の過程の振り返りの一連の流れを探究の過程が分かりやすく示されており、生徒の課題解決能力の育成を意識した学習構成となっております。125ページには練習問題を用意し、実験後の学習の定着が図られるよう工夫されてお

ます。また、発展実験を用意することで、科学への興味関心を高める工夫が見られます。

134ページをご覧ください。「読解力問題」が単元末に示され、生徒が学んだ溶解度や再結晶について知識を活用させて、思考・判断・表現することで、学びが深くなるよう工夫された問題が用意されております。

120、121ページをご覧ください。サイエンスプレスやプロフェッショナルでは、水溶液の性質と日常生活との関連について様々な視点から考えさせることで、実社会・実生活と学習とのつながりを意識できる内容が掲載されております。

126ページをご覧ください。その他、教科書の随所に、挿絵、写真、図表等は、本文と並列して学習しやすい形となるよう工夫されております。

次に、学校図書でございます。84ページをご覧ください。各章の初めの「Can-Do-List」で生徒が自己チェックをし、学習の取り組み方に見通しが持てるよう工夫されております。

91ページの右上をご覧ください。水溶液から溶質を取り出すための課題を明確にし、理科の見方・考え方を併せて示すことで、生徒がより見通しをもって実験観察をするよう工夫されております。

92、93ページをご覧ください。見開きで実験、結果、考察についてスモールステップで分かりやすく提示し、95ページ右下に、実験のまとめを示すことで、自分の考えを確かめられるよう工夫されております。

105ページをご覧ください。各章の終わりの「Can-Do-List」で生徒が自己チェックをし、学習の振り返りができるよう工夫されております。

また、105ページ下をご覧ください。サイエンスカフェでは、身近な生活をテーマにした資料を用意し、実社会・実生活との関わりについて、興味・関心を高める工夫が見られます。

98ページをご覧ください。写真やイラストが大きく掲載されているので、視覚からイメージしやすい紙面構成になっております。

次に、教育出版でございます。

119ページから122ページを順にご覧ください。溶解度について理解するために、120ページでは「課題」「仮説」「計画」を、121ページでは「実験」「考察」「結論」を見開きで提示し、探究過程が分かりやすく提示されております。併せて探究過程での用語を教科書左側に順を追って示すことで、生徒がどの探究活動に取り組んでいるか分かるよう工夫されております。

123、124ページをご覧ください。各章最後に演習問題を設けており、学習内容の習得

が図られるよう工夫されております。

112ページと125ページを比べてご覧ください。「学習前の私」「学習後の私」を通して、この学習で生徒自身の科学的概念の変容について認識させるよう工夫されております。

125ページをご覧ください。教科書の随所に登場する単元の学習や科学読み物「ハローサイエンス」が掲載されております。科学的な原理や規則性などが実社会・実生活でどのように活用されているかを取り上げております。

巻頭5ページの折り込みを開いてご覧ください。教科書のどの学習場面でも参照しやすいよう「探究の進め方」を折り込みの形にし、さらに、生徒自身がどの学習段階にいるかを確認することができるよう工夫されております。

最後に、新興出版社啓林館でございます。171ページから175ページを順にご覧ください。溶質を取り出す探究活動の中で、172ページ左のような「実験のスキル」や172ページの下のような「発展」、174ページの左下のような「みんなで解決」等、実験を支援する内容や発展的な資料、日常生活との関連した資料が配置され、生徒1人1人の学習を支援するよう工夫されています。

176、194ページを併せてご覧ください。176ページには「基本のチェック」、194ページには「学習のまとめ」のように、学習の定着場面を設定するとともに、既習事項の振り返りのページを明示することで、生徒が自学自習できるよう工夫されております。

176ページをご覧ください。科学コラムとして、「防災減災ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」など、様々な日常生活や職業に関わる内容の資料を豊富に用意し、実社会・実生活との関わりを紹介することで、理科の学びの必要感を生徒に持たせるよう工夫されております。

200ページをご覧ください。各単元末にある「みんなで探Qクラブ」の中で、生徒自身に理科の「学び方」や理科の見方・考え方の視点を着目させると共に、探究活動の振り返りを図式化して分かりやすく示しております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 調査・研究の観点のところでは実社会・実生活との関連ということを挙げられていますが、説明の中にも幾つか出てきた、草加の生徒たちにとって、より効果的であるような場面を2つ、3つでいいので、具体的に取り上げてお示してください。

それから、科学的な読解力という記載がありますが、それについても分かりやすく記載され

ている点を幾つかでいいので具体的にお示してください。

○説明員 それでは、まず初めに、草加市の生徒たちにとって実社会・実生活に関連する効率的な場面についてでございます。例えば、先ほども幾つかご紹介させていただきましたが、東京書籍であれば、実生活につながる場面ということで、134ページに薬のことが載っています。ここでは再結晶について学習する中で、再結晶により純粋な薬が作られていることを含めて紹介されております。今まさにコロナウイルスに関した薬の開発が進んでおりますが、このようなことも実社会・実生活につながる勉強になると言えるかと思えます。

大日本図書では、117ページに「くらしの中の理科」というコラムの中で、石油が紹介されていますが、石油の精製は身近なものとして、冬に使う灯油、車で使うガソリン、飛行機に使うジェットエンジン、ジェットガソリン、そのようなものが身近な実社会・実生活につながっているものとして紹介されており、その他の教科書でも実社会・実生活につながるものが豊富に紹介されております。

続きまして、読解力についてでございますが、大日本図書の70ページをご覧ください。これは動物の分類を問題にしたものですが、このそれぞれの動物の特徴を表した表から、特徴をヒントにどのように分類できるかということを生徒たちが自分たちなりに探究していくことができるよう工夫されており、そのような過程を通すことで読解力という形につながるのではないかと考えられます。

その他の出版社にも生徒たちの読解力、理解力を深めるための工夫がそれぞれされていると考えております。

○宇田川久美子委員 理科の教科書では、東京書籍のものが圧倒的に大きいと思うのですが、大きいことに対する意見や不具合などがもしあれば教えてください。

○説明員 大きい教科書といえば、東京書籍や、学校図書、教育出版、啓林館なども割と大きい教科書だと思いますが、横に大きい、縦に大きいなど多少の違いはあれども、やはり大きいと掲載される写真や画像などが非常に大きく、また、文字が詰まりすぎていて見づらいなどという点も、大きければ大きいほど工夫がされているように見比べることができました。

ただ、欠点としては重たくなる場所かと思えます。それから、持ちやすさや、持ったときの重さ、開きやすさなどの点で多少の長所、短所はあるかと思えますが、このぐらいの大きさの差異は特に問題ないかと思えます。

○宇田川久美子委員 教科書が大きいという点で、東京書籍は紙が薄いものを使用しているので重さは気にならないということで、実際に重さを量ってみたのですが、2年生のもので量る

と、東京書籍が620グラム、大日本図書が560グラムで、実は60グラムも差があったので、実際に量ってみるとこんなにも違うのかということを感じました。

それと、教科書の名前なのですが、理科という教科に対し、理科という言葉を使用している発行者がある一方で、科学、サイエンスという言葉を使用している発行者の意図についてです。子どもたちに科学という言い方をしても、理科だと通じるでしょうが、なぜわざわざ科学やサイエンスと呼ぶのでしょうか。

○説明員 私は、理科という名前の教科書については、理科は小学校から馴染みのある名前なので、つながりやすいという意味で理解しています。ただ、中学における理科の世界というのは、先ほど言ったとおり、実社会・実生活、未来につながる科学的な内容が多いので、科学という言葉はすごく広い意味合いを持ち、未来につながるような学習をこれからしていくのだという意図をととても感じます。それから、サイエンスについて、これは科学という意味ですが、英語を学び始めるということもあり、そういう点でグローバルな意図があるのかなと感じます。

○宇田川久美子委員 私は元素周期表を見て科学が大好きになったのですが、その元素周期表の取扱いなどが発行者によって違いがあると思ったのですが、例えば、大日本図書の2年生だと、周期表のところに、例えば、アルミニウムであれば1円玉、銅であれば10円玉、ニッケルであれば100円玉という、それぞれの元素がどのようなところに使われているのかの表記があり、実生活に根づくというところにおいては良いのかなと思います。

どこに周期表があるのかと見たときに、例えば、東京書籍などでは、3年生の単元の中で1ページに詰め込んで掲載されていたので、こんなに楽しいものが閉じ込められているのはもったいないと思ったのですが、それぞれの発行者の周期表の使われ方の特徴があれば教えてください。

○説明員 周期表の扱い方については、周期表はあくまで中学校3年間で教える範囲が決められていて、それをしっかりと押さえる中で、アルミニウムももちろん中学校で教えていい内容なのですが、それが実社会にしっかりとつながる物質だということは中学校3年間の中で必ず触れていくのかと思います。それは、やはり興味・関心を高めるという意味で、周期表によると地球上にはいろいろな物質の元素があり、それらが実生活でどのように使われているか表記されているのは確かにとても良いと思うのですが、いずれにしろ我々教師は実社会で使われているところにつながるようなものをネット等で必ず探して全員紹介するので、どの教科書を使用しても大丈夫です。

○加藤由美委員 宇田川委員と重なるところがあるのですが、教科書のページ数で、東京書籍

は少し縦が長いのでページ数が少し少ないのかと理解ができるのですが、学校図書と教育出版は、同じ大きさでかなりページ数の差があるのですが、それは内容が多いのか、分かる範囲で結構なので、何か教えていただければと思います。

○説明員 学校図書と教育出版ですね。例えば、植物のところなのですが、学校図書は章末問題を含めて63ページ、教育出版は、章末問題も含めて77ページ、約14ページという差になるのですが、これはあくまで私の印象ではあるのですが、まず、教育出版は比較すると図や写真が大きい。一方で、学校図書は、掲載量が少ないのかというと、そういうことでないのですが、やはりどちらかということ、教育出版は文字等も含めて1ページに対し大きくゆったりと、量を確保して見やすくしているということはあるかもしれないと思います。

○川井かすみ委員 実社会につながるということで、SDGsに関して記載がある出版社がございましたら、ご紹介いただけますか。

○説明員 SDGsはどの出版社も関連する内容をしっかり掲載しております。その中でも特に学校図書は巻頭の5ページのところに大きく取り上げて、関連した内容などもいろいろなところに掲載されているのですが、どの教科書も環境という観点から持続可能な社会について必ず掲載していると思いました。これは学習指導要領解説・理科の中で、持続可能な社会を作っていくことの重要性をしっかりと取り上げ、生徒にしっかりと気付かせることが理科の果たす役割の大きな1つであると示されておりますので、2・3年生においても環境学習や国際協調を意識した教材がどの教科書にも掲載されております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど教科書の名前が幾つかあるということでお話がありましたが、理科、科学、サイエンスであっても、主体的な探究活動がその内容ということで、理科でいわゆる一番大事な探究の仕方について、この5者で何か大きな違いがあるのか、あるいは、基本的なところなどは多少違いがあっても、探究に向けての生徒たちの意欲や興味などを引き出すことについてはどの教科書も同じなのか、あるいはそのような中で、これらの教科書で学んでいく上で、草加の生徒たちに一番合うような探究の仕方がもしあれば、教えてください。

○説明員 まず、探究に関してはどの出版社も探究の仕方についてのマニュアルが巻頭に必ず掲載されており、ある教科書はそれぞれの実験に対し、「課題を見つけよう」から、小さな文字で「問題発見」など、探究の過程が明確に分かるよう工夫されているなど、どの出版社も、それぞれ工夫の仕方は多少違いますが、はっきりと明確に示されていると思います。

例えば、東京書籍であれば110ページ、大日本図書であれば128ページ、それから、学

校図書であれば巻頭の6ページのところに「トリセツ」、教育出版では巻頭の5ページに「探究の進め方」ということで、きちんと探究の仕方について解説がされています。

草加市の生徒たちに合う探究の仕方という観点については、探究は先が見えていない方がいいですね。なので、生徒よりもむしろ教師が、今日の授業でどのように探究させるかと考えたときに、どの教科書も非常に参考になり、工夫されていると感じました。

中学校の生徒たちの興味・関心というのは、理科の授業を受けている姿を見ていると、やっぱり実験が好きだなと感じます。そう考えると、先生たちにはまず生徒たちにどうして、なぜと導入で思わせて、そして、自分たちが予想したことを実験でしっかり確かめさせて、やっぱりそうだ、やっぱり違ったと考えさせて、行動してみて、結論が出たときに、その結論がどうしてそのような結論になったかを考えさせる授業を常に考えていくようにお願いしています。

○村田悦一教育長職務代理者 もう一点。調査・研究の観点で、実社会・実生活との関連について、先ほどのお話の中では日常生活に生かしていくことや、学びの必要性を挙げられていましたが、考えれば今日も35度以上の猛暑日で、我々の時代は31度に届けば暑いと感じたものですが、そのような環境の違いに関連して、子どもたちがどうしてこんなに暑いのだろうと考えることや、熱中症など、そのようなことの学びの必要性は、生徒というより、それを教えていく教師、あるいは教科書にも当然あると思います。そういう意味で、理科の内容は多岐に渡っていますし、本当にいろいろなところで変わっていくわけで、そういう意味で改訂がされていると思うのですが、今、学習指導要領の中での教科書作りにおいて、当然限界はあると思いますが、この発行者は先を見て、環境などのいろいろな変化についてよく対応している、あるいはより多く感じ取っており、実生活に生かすための「今」をより感じさせるような教科書はあるのでしょうか。

○説明員 どの教科書もそれは間違いなく触れられていると感じております。先ほどおっしゃったとおり、例えば二酸化炭素がどんどん増えているということで、オゾン層の破壊や、地球温暖化などについて、天気の単元で必ずどの先生たちもそのようなことに触れて授業をなさっているのを昨年度も見ましたので、必ず教科書にはそのようなことが掲載されているというのが私の実感でございます。

○高木宏幸教育長 科学的に探究する資質・能力を育てることが理科の目標ですよ。それは、先ほどあったように、観察、実験を通して育てるというのがあるので、この観察、実験というのは理科の授業における一番の核。今、説明員が言われたように、実験、観察を通してそのよ

うな資質・能力を育成していくところですが、一方で、草加の生徒たちの実態の中で基礎的・基本的知識・技能の習得ということも課題の中にあるということで、先ほど説明がありました。この観察、実験の技能のところ、生徒たちが本当に正確に実験、観察に取り組んでいけるように、分かりやすく、しかも体系的に、いろいろな実験や観察に際しての様々な配慮が見られる教科書は特にありますか。

○説明員 当然、実験、観察に正しく取り組むためには、生徒たちに与える新しい器具、道具の使い方をきちんと身に付けさせなければならないということで、どの教科書も技能については本当に配慮がされていると自分は思います。実験器具の技能習得のためには、例えばですが、東京書籍であれば111ページ、大日本図書であれば281ページ、学校図書であれば258ページ、教育出版であれば294ページ、啓林館であれば172ページのように、いろいろな基礎技能をきちんと身に付けられるよう紹介されています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「中学校 音楽」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 音楽〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、音楽科の教科書についてご説明申し上げます。

まず、草加市の生徒の実態でございますが、週1時間の授業ではありますが、音楽科の学習に積極的に取り組む生徒が多く見られます。日々の授業や全ての中学校で実施されている合唱コンクールなどで、着実に表現力、特に歌唱力が向上しています。また、埼玉県小中学校音楽会において地区代表に選出される機会が多くあり、歌唱のみならず、器楽合奏にも優れています。

一方、生徒一人ひとりの音楽体験の違いなどにより、音楽に対する興味・関心や技能の定着に個人差が見られます。個人差に応じながら、音や音楽、音楽文化との豊かな関わりを築けるようにしていくためには、生徒の興味・関心を高め、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすことのできる教材を選択していくことが必要であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえた調査研究の観点につきましては、音楽科（一般）（器楽合奏）ともに「教材の選択」といたしました。

次に、各発行者の特色、特長等について、ご説明申し上げます。

音楽科（一般）につきましては、各発行者の第1学年のものを例にとって、同じ教材の扱い

方についてそれぞれ説明させていただきます。

教育出版につきましては、初めに、28ページをご覧ください。日本の民謡の「ソーラン節」が掲載されています。28ページの左側に「民謡にふさわしい声で」と学習のめあてが示され、五線譜を用いて歌う活動が設定されています。29ページの「かりぼし切り歌」で比較学習、59ページの「谷茶前」で発展学習と教材を関連させて学習できるように工夫されています。

次に、38ページをご覧ください。鑑賞教材のヴィヴァルディ作曲の「春」が掲載されています。最初の2ページで楽譜、楽曲や作曲者について説明し、次の2ページで「春」全体の主旋律の楽譜が掲載され、最後の2ページにソネット（詩）に基づいて、音楽と関連づけて学習する工夫が見られます。

このように音楽活動が主体的に行えるよう、イラストや書き込みなどが工夫され、豊富な楽譜からも情報を得ることができます。また、言語活動の充実も図られ、発展的学習にも対応し、幅広い音楽的知識が身に付けられるよう配慮されています。

次に、教育芸術社につきましては、58ページから63ページにかけて、日本の民謡が掲載されています。58ページの鑑賞活動を通して、日本の民謡に対する興味・関心を高め、続く60ページでは「ソーラン節」を取り上げて、教材名の下に「模範演奏を聴いたりまねしたりしながら」と民謡を一人ひとりが感覚的に捉え、音楽のどのような特徴に気を付けて表現を工夫したら良いか、学習内容が具体的に示されています。「ソーラン節」の旋律を線で示した楽譜を手がかりに、模範演奏を聴いて真似をしながら、歌えるようにする活動が設定されています。

次に、44ページをご覧ください。鑑賞教材のヴィヴァルディ作曲の「春」が掲載されています。44ページから46ページにある主旋律の楽譜、演奏者の言葉、作曲者やイタリアの気候の説明を手がかりに曲を聴き、47ページの「深めよう音楽」で聴き取ったことと感じ取ったことをそれぞれ表に書き込みながら、学習目標である曲想の変化を一人ひとりが感じ取れるようにしております。

このように学習目標や内容と教材の関連が明確で、学習の手順が分かりやすく示されており、生徒が学習の見通しをもって取り組み、音楽の基礎的な内容を確実に身に付けることができるようになっております。

次に器楽について説明させていただきます。

教育出版についてですが、7ページをご覧ください。「左手で吹こう」という学習のねらいをスタートとして、9ページの「まとめの曲」をゴールとして設定し、基礎的な学習から段階

的に取り組めるようになっていきます。また、楽譜にコード名が記載されており、楽譜の情報量が豊富であるという特長が見られます。また、楽曲はハ長調だけでなく、ヘ長調などで示されている曲も掲載されています。

次に、54ページをご覧ください。和太鼓についての学習が59ページまで掲載されています。和太鼓の種類や、ばちの持ち方、構え方、打ち方などが写真とともに説明されています。

このように、豊富な資料が多様に掲載され、楽器の細かい演奏技術や、楽曲の持つ美しさやよさが生かされた調号で掲載された曲など、より高度な演奏ができるように工夫されています。

次に、教育芸術社についてですが、20ページをご覧ください。「レッスン1」というように見通しを持って基礎的技術を学習するように掲載され、平易な曲から段階的に学習できるよう工夫されています。また、ハ長調で示されている譜面が多く、楽譜も音符のみという見やすい表記になっております。

次に70ページをご覧ください。多くの打楽器とその奏法などが5ページにわたって掲載されています。簡単に演奏が可能な打楽器が幅広く掲載され、生徒が多様な打楽器に興味・関心を持って音楽活動できるよう工夫されています。

このように資料、教材が豊富に掲載されています。取り組みやすい調号で表記された曲が多く、段階的に音楽の基礎的技能を高めるよう工夫されています。また、世界の音楽を含め、様々な音楽ジャンルの曲が掲載され、生徒や学校の実態に応じて教材を選択しやすく、生徒が興味・関心を高めながら音楽活動に取り組むやすいという特徴があります。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 草加市では国際ハーブフェスティバルが毎年行われておりまして、日本ハーブコンクールというものもございまして、国内外から多くの方が参加されています。そのような草加市を代表するイベントとの何か関わり合いなどがございましたら、教えていただけますか。

○説明員 学習指導要領の改訂で、生活や社会の中の音楽、音楽文化と主体的に関わるということが挙げられております。そういう意味から、2つの教科書とも、教育出版では「私たちのくらしと音楽」、教育芸術社では「生活の社会の中の音楽」といったことをページで設定し、地域の音楽に根付いた曲を学ぼうということが掲載されています。

また、ハーブという楽器ですが、オーケストラの中にハーブを題材とした曲も多少入ってい

ます。特に、3年生の教科書に掲載される「モルダウ」が含まれる「我が祖国」の第1曲に「ビシエラフト」があるのですが、それは全てハープで始まるので、そういうところからハープに興味を持たせながら、草加市音楽都市ということを学べるのではないかと考えております。

○宇田川久美子委員 草加市の生徒の実態として、個人差が見られるということですが、授業ではその個人差という部分にはどのように対応されているのですか。

○説明員 確かに個人差はあります。ただ、今の世の中で音楽というものは周りに氾濫してしまして、自分で結構いろいろなものを取得できます。そういう意味から、2つの教科書発行者とも、いろいろなジャンルの題材、教材を多用しながら、より切り口を幅広く持たせることで対応しています。また、歌唱については、段階的に取り組めるよう、教育出版でしたら、「歌うための準備」ということで12ページに記載されております、「息のコントロール」で自分で学べるようになっております。また、教育芸術社に関しては、「My Voice!」というところで、「自分の歌声を見つけよう」ということで、自分の歌声を自分で学べるような呼吸法なども掲載されております。

また、教育芸術社に関しては、「My Voice!」は2・3年生の下巻まで、発達段階に応じてこの設定がされております。

○加藤由美委員 草加市の実態として、各社にギターや琴や太鼓、打楽器など、いろいろ載っていますが、生徒たちが実際に触れる教材には、どのようなものがあるのですか。アルトリコーダーはやっていると思いますが、ほかの楽器などはありますか。

○説明員 小学校全部でソプラノリコーダーをやっております。あとは現場判断でやっています。中学校ではほとんどの学校がアルトリコーダーをやっています。そのほかに、学校によってですが、ギターや、和楽器を3年間で1つ学ぶということで、琴、あるいは締太鼓などを用意している学校もございます。

○村田悦一教育長職務代理者 教材の選択ということで、例えば、私などが知っている「赤とんぼ」は両方に出ていて、「日本の歌 みんなの歌」あるいは「心の歌 歌い継ごう日本の歌」というような形で出ているのですが、子どもたちも変わってきていますから、昔から同じ曲をとすることはあり得ないと思いますが、伝統や日本らしさという形の中で歌い継ぐというか、そういうものも必要なのかなと思います。そのような以前歌われていたような歌について、今の教科書の中では、この曲だけは入れようとか、そういう仕組みになっているのでしょうか。あるいは、例えば、草加市であれば、それぞれの学校や音楽の先生方の集まりで、草加の子どもたちにこの歌を歌い継いでいこうとか。あるいは、中学校で教えるのか小学校で教えるのか

は別として、草加市歌というものもありますよね。そういう意味での広い選択教材として、例えば、歌であれば、教科書あるいは学校現場で実際にはそれをどういう形で融通しているのですか。

○説明員 日本の歌に関しては、学習指導要領では何学年で学習するということは明記されておらず、中学校でこの曲を学習するということが明記されています。その中に「赤とんぼ」や「浜辺の歌」などがあります。ですから、教科書発行者によって様々違う部分もあるのですが、発達段階に応じて、高学年では背景を探りながら、歌いながら、豊かな情操を養ったり日本の文化を継承するということが行われているので、何学年ということは規定されておられません。より深く学習する場合に、「赤とんぼ」を1年生で学習するということがありますが、そういうことはございません。

市歌に関しては、学習指導要領では明記されておませんが、これはやはり草加市として広めるのであれば、音楽科の教員に周知しながらやっていくことが必要ではないかと考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 今、一般的に、高校に行くと美術と音楽、国語科書写の中の書道を選択することになっていますから、高校に行って、もう美術はやらない、音楽はやらないという生徒も出てくるわけですね。中学校3年生の義務教育の中で日本のそういう歌や、いろいろなすばらしさといったものもやはりつなげていってほしいというか、そういう気持ちがあるので今のお話をしたのですが、特に義務教育で音楽が教科として終わるということで、何かその辺の教科書や実際の指導で意識している、あるいは、指導の中でやっていることはあるのですか。

○説明員 日本の歌曲を含めて、2つの教科書も様々、世界のいろいろなジャンルの音楽が掲載されております。その意味から、中学校でより幅広い学習をした後、今、世の中に氾濫している音楽から、自分の好きなジャンルなどを各自学ぶということの切り口になる教科書ではないかと考えております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に「中学校 美術」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 美術〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 美術科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、現在、テレビやパソコン、スマートフォンといった便利なものに常に接して生活していく中で、様々なものを見たり調べたりすることには長けている一方、新しいものを生み出す造形的な力や独創性がなくなってきております。

また、美術科の授業の作品制作において、感性や想像力を豊かに働かせて表現できる生徒が少なくなってきたと言えます。

要因の1つとして、「良い作品や本物に触れる機会がない」。もう1つには「二次元の表現に慣れてしまって、立体的な感覚に乏しく、鑑賞するとき、作品を多面的に捉え、自分の作品に生かせる表現方法はないか探す視点で鑑賞できていない」ことなどが挙げられます。鑑賞する方法を知ることによって表現が、表現する体験をすることで鑑賞がより深く良いものになっていくと考えられます。特に感受性が豊かで変化に敏感な中学生には、表現と鑑賞の関連を図って指導していくことが最も大切であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「表現と鑑賞の相互の育成」としました。

次に、各発行者の特色、特長等について、ご説明申し上げます。

開隆堂出版につきましては、美術1の14ページの版画の題材をご覧ください。題材の導入や作品解説、作者の言葉から、造形的な視点を理解できるように工夫されています。右上の「学習のポイント」は発想や構想のポイントを、その下の緑の双葉マークは学習の進め方を示し、コラグラフのやり方を分かりやすく説明しています。また、15ページの中ほどにある「美術の用語」は題材に関わる用語の解説を示し、コラグラフやフロタージュの意味を理解するのに役立っています。下の緑の双方向の矢印マークは、巻末の「学びの資料」につながり、彫刻刀の使い方を紹介し、版画に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫されています。

16ページと17ページをご覧ください。4ページ構成の題材では、人の姿や動き、表情を観察し、人体のよさや美しさを見つけやすく鑑賞できるようになっており、次の18ページと19ページには、動きを表現するのに刷毛や布、針金を使って表現する方法が示され、表現と鑑賞の学習が相互に関連し、学習が深まるように工夫されています。

24ページと25ページの鑑賞の題材をご覧ください。伊藤若冲の様々な作品が掲載され、若冲の人となりや多様な表現方法を学べるようになっております。見開き2ページには、原寸や作品の細部を拡大した図版を掲載し、右上には「学習の目標」として①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力・人間性等の3観点の目標を示し、学習する意図を明確に

しています。また、QRコードを掲載し、若冲の作品を所蔵している美術館のリンク先が紹介されています。

美術2・3の10ページの「風景が語るもの」をご覧ください。1人の作者の作品を3点取り上げて比べ、11ページの作家との比較をして12ページと13ページに生徒作品を多く取り入れるようにして表現の多彩さを紹介しています。美術の基本となる題材については、たくさんページ数を割いて参考作品を載せることで学習意欲を高める工夫がされています。同じように彫刻では28ページと29ページの場所と場面の表現の比較から形の比較、32ページと33ページから場所と彫刻の響き合いを、34ページと35ページで立体と平面の表現の違いや主題を表すための表現の違いについて、参考作品を豊富に掲載し、比べられるようにすることで、深い学びへ導くように工夫されています。

次に、光村図書出版につきましては、美術1の10ページ、11ページの絵の題材をご覧ください。表現と鑑賞を一体的に学べる構成で、表現と鑑賞をアイコンで表示しています。10ページの題材導入の鑑賞では表現につながる作品を掲載し、対話が生まれるような問いを示しています。11ページの表現では作品の発想を広げ、構想を練るための手立てを示しています。右下の資料は巻末の「学習を支える資料」につながり、絵を描く技法を紹介し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫されています。

12ページをご覧ください。左上の表現「みんなの工夫」では、2名の生徒の制作過程を紹介し、実際の中学生がどのように発想、構想し、試行錯誤しながら作品を作り上げていったのか製作過程を知ることで、自分の表現に生せるように工夫されています。このことから、苦手な生徒も取り組んでいくことができるようになっていきます。

また、下の二次元コードは生徒作品が数多く見られ、13ページの二次元コードからは実際に描いている様子を動画で見ることができます。実際に授業で、様々な技法を知って制作できるように工夫がされています。

30ページから35ページの鑑賞の題材をご覧ください。鑑賞図版は、より本物に近い感覚で見ることができるよう、見開きの折り方や立体と平面の配置に工夫が見られます。鑑賞する上で生徒の実感的な理解を深め感性に訴えることにつながるような構成になっています。

また、36ページの下二次元コードでは、音声での解説が聞けるようになっていて、それぞれの二次元コードが特色を持っています。

美術2・3の10ページのレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」では、トレーシングペーパーが写真の上に置かれ、実際の消失点を導き出せる線を引くことができるように工夫さ

れています。そして、絵画の中の晩餐に参加している錯覚を味わわせようとする作者の意図まで気を配り、実際にその場で実物を見たときの感動に着目できるように工夫されています。食堂正面の壁画と側面の建物と窓を描いた壁画後の錯視による消失点の効果、また、37ページのように紙質を変え、実際の和紙を感じられるように工夫されています。

42ページでは同じ主題でもミクストメディア、本の表紙、立体と様々な表現で制作できることを紹介し、48ページのように有名作家の作品を見開きで紹介して、多くの作品を載せることで作家の思いに迫るように鑑賞に重点を置いています。

次に、日本文教出版につきまして、教科書が美術1、美術2・3上、美術2・3下の3冊構成で、それぞれの発達段階に合わせて使用できるようになっています。また、3冊の表紙の写真が美しく、手に取りたくなるような思いを起こさせるようになっています。

美術2・3上の10ページをご覧ください。動きを形にする題材では、二次元QRコードから360度鑑賞できるようになっていて、下の「造形的な視点」は、参考作品の鑑賞から表現への発想を得るように工夫されています。

美術1の42ページ、デザインに関する題材をご覧ください。見開き2ページの構成で、左下の「造形的な視点」では学習を深めてほしいことが書かれ、造形的に捉えられるように工夫されています。また、その下の「参照」は、巻末の「学びを支える資料」につながり、基本的な書体や構成を紹介し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫されています。

43ページの上の「作者の言葉」には作者の思いや考えを紹介し、発想・構想する際に役立つようになっています。

美術1の34ページから37ページの鑑賞の題材をご覧ください。尾形光琳の燕子花図を見開き2ページで紹介し、実際に屏風の折り目で折って、奥行きなどの違いを確認できるようになっております。さらに、二次元QRコードを掲載し、作成した時代に合わせ、ろうそくを灯した屏風の映像を見せながら解説し、生徒の興味・関心を引く工夫がされております。

美術2・3上の表紙をめくると、ゴッホの『星月夜』の原寸大の絵を、また、26ページから29ページの見開きには浮世絵を掲載し、30ページでモネやゴッホなど、浮世絵から影響を受けた作家の作品を載せて、社会とのつながりや世界観を感じさせる作りになっています。

50ページをご覧ください。日本の作家に焦点を絞り、岡本太郎の「太陽の塔」と対になる「生命の樹」（塔の内部）に焦点を当てて、生命や進化、内なる宇宙に対する作者の秘めた思いにまで迫る工夫をしています。

美術2・3下の20ページから32ページまで、歴史的な作品、「モナリザ」や見開きの「ゲ

ルニカ」など、また、現代作家、池田学、仏像等を豊富に掲載し、その時代の背景を感じさせながら、発想の手助けとなるように工夫されています。

3冊ともに写真掲載数が豊富で、他の資料が必要のない作りとなっています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 文教出版が、2・3が上下に分かれています、どうして1、2、3ではないのですか。

○説明員 2・3年生につきましては、内容が2学年にわたって計画的に見通しを持って指導する項目ということになっており、地域や学校及び生徒の実態に応じて指導できるよう、こうした対応になっております。

○村田悦一教育長職務代理者 やはり美術ですから、見てすごいなという芸術的な作品も多くて、どれをとっても素晴らしいのですが、草加の生徒の実態で、感性や想像力を豊かに働かせて表現できる生徒が少なくなってきたという要因の1つとして、柳宗悦の「民藝」ではないですが、生活の中の美というか、身の回りにある美しいもの、素晴らしいものに気付かなくなっているのではないのでしょうか。もっともっと私たちの身の回りには名もない人が作ったものがあります。それは逆に、気付かせていないのかもしれませんが。だから、幾ら素晴らしいものをこうやって生徒に見せても、「ああ、素晴らしいな」で終わってしまったら、感性も想像力もやはり豊かになっていかないと思います。そういう意味で、この3者の中でいわゆる民芸というか、名の知れない、昔から作られてきたものや、そのすばらしさ、そんなものを取り上げている教科書はありますか。そういう民芸的な美というものは、どこの教科書発行者もあまり取り上げていないのでしょうか。

○説明員 どの教科書発行者でも日本の歴史のほか、そういうものについては取り上げています。また、世界のことについても写真や作品などをたくさん載せて、生徒たちの関心を引くような構成になっております。特に感性を豊かにするために、自分や他者、生活、社会、自然、環境を題材に取り上げている作品というページがありまして、教科書の中にはありませんが、教育課程の中にも、地域のものを取り入れるという内容が含まれています。

○村田悦一教育長職務代理者 生徒の作品がどの教科書にも掲載されているから、学校教育の中の美術と言えるのかもしれませんが。もしこれがなかったら、学校教育ではなく、一般の本になってしまうと思います。生徒の作品の取り上げ方について、教科書発行者ごとに、この教科

書発行者はこういう意図で生徒の作品を取り上げて、こういう効果を上げているというような、何かはっきりした意図はあるのですか。教科書発行者から示されていたり、あるいは、教科書を分析した中で見えてくるようなものはあるのでしょうか。

○説明員 今回の教科書は、新指導要領の新しい教科書ということですので、これから検討されていく内容が多く含まれていると思いますが、現行の教科書の中でも同じように、生徒たちの作品などが生徒たちの感受性を広げたり、生活の手助けになることに十分に役立つように、どの教科書発行者も考えて載せてあると思います。

特に、新しい教育課程になってからは、生徒たちがどのように考えて制作していくのかという過程が分かるような視点を持っている教科書発行者もごさいます。

○川井かすみ委員 草加松原が埼玉県では三波石峡と長瀨溪谷に続いて3件目の国指定名勝ということで、ここは本当に草加市民のいろいろな方に知っていただきたい場所なのですが、そういった草加松原の松並木の本物を見る機会がないということをおっしゃっていました。松並木も本物ですし、芭蕉像、曾良像もあります。あとは、草加松原と綾瀬川公園をつなぐハーブ橋というものがあるのですが、先ほど音楽のときにもお話をさせていただきましたが、草加市は音楽都市宣言をしていて、ハーブになじみのある市です。日本全国にハーブ橋といった名前が付いた橋はたくさんありますが、ハーブのブロンズ像がついている橋というのは実は草加市だけなんです。そういったところで、草加市にはこんなところがありますよと、本物を見る機会があるのではないかと思ったのですが、草加市の生徒に対して美術で大切にしている活動などが何かございましたら、教えていただけますか。

○説明員 草加の活動というのなかなか難しいのですが、学校によっては様々な地域の方と合同で、例えば草加であれば革製品など伝統的なものを取り入れて、総合学習の時間なども含めてやっているところもありますので、機会としてはあると思います。ただ、昔は2時間続きだった美術も、現行1時間になりまして、短い時間の中でより深い内容を、と言われていまして、その時間はなかなか取れないのが現実です。

ただ、いろいろな美術の先生方が集まる中では、草加市でどのように取り組んでいくのかという共通理解を持ち、草加市の歴史も含め、先生方が勉強しながら生徒たちに当たっていかうと思っています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより数学、理科、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、小澤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、川井委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

数学、東京書籍株式会社6票ですので、東京書籍株式会社といたします。

理科、東京書籍株式会社1票、大日本図書株式会社4票、教育出版株式会社1票ですので、大日本図書株式会社といたします。

音楽（一般）、株式会社教育芸術社6票ですので、株式会社教育芸術社といたします。

音楽（器楽合奏）、株式会社教育芸術社6票ですので、株式会社教育芸術社といたします。

美術、開隆堂出版株式会社3票、光村図書出版株式会社3票、同数でございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規程によりまして、教育長による決定となります。私は、光村図書出版株式会社を選ばせていただきましたので、光村図書出版株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで午後3時10分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長 「中学校 保健体育」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 保健体育〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 保健体育科の教科書についてご説明を申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、全国及び県の学力・学習状況調査の質問紙や新体力テストの結果分析によると、体育以外で「運動をする生徒」と「ほとんどしない生徒」の二極化や「生活習慣の身についている生徒」と「そうでない生徒」の差が大きく、運動習慣や生活習慣に課題がある生徒が増加しております。

その要因としては、ゲームやスマートフォンを行っている時間の増加に伴い就寝時間が遅くなることが挙げられます。また、健康の大切さに対する意識が希薄であり、健康な生活の必要性を自分事として捉えていないことも要因であると考えられます。

以上の実態を捉え、日常生活において、健康的な生活を営む必要性を認識させ、その資質や能力を培っていくことが、必要であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「健康的な生活を営む資質・能力の育成」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等について、本市の課題をもとにした観点を含めて、第1学年で扱う「健康な生活と病気の予防」の内容と、実生活につながる2年生で取り扱う「自然災害について」を例に挙げ、ご説明を申し上げます。

東京書籍『新しい 保健体育』につきましては、初めに、14ページをご覧ください。「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」といった、学びの統一性があること、そして、それぞれのステップに応じた質問があり、思考力・判断力・表現力を育成できるよう構成されております。

また、「活用する」や「関連」（リングの重なった）をマークで示し、よりよく学習に取り組んだり、「Dマークコンテンツ」を活用し、さらに深い学びができるように工夫されています。本文中には、矢印で資料の番号が示され、周囲の資料とのつながりが分かりやすいように

表記されています。

「活用する」では、これまでの学習を踏まえ、自分の健康、生活について考えさせ、「調和のとれた生活」について、発表し合ったり、意見を交わし合ったりして、習得した知識・技能を活用して、より深く考えられるように工夫されております。

また、次のページの「章末資料」でも、健康な生活を営むために大変重要な「睡眠の必要」など発展した内容が取り上げられており、学習を深めることができるよう工夫されております。

次に70ページをご覧ください。「自然災害による危険」について学習し、次の72ページで「自然災害による傷害の防止」「災害の備え」について、さらに次の74ページで、支えあいが大切であること「共に生きる」となっております。ここでは、特に、「地域のきずな」の大切さを学習するページが充実されており、「中学生が深めた地域のきずな」の「読み物」を取り入れ、興味・関心を深められるよう工夫されております。

次に、大日本図書『中学校 保健体育』につきましては、初めに、24ページをご覧ください。「学習のねらい」で課題を示し、「つかもう」で興味・関心を高め、「話し合ってみよう」で学習の中心となる活動を示す、といった流れで学習が進むように構成されております。資料を活用して課題解決し、さらに「活用して深めよう」では、学習したことを生活に活かすなどの活動ができるよう工夫が見られます。

どの項目のページも教科書の左に本文、右に資料を配置し、見やすく、表記に特徴が見られます。欄外の「ミニ知識」や重要な言葉「キーワード」などがあり、基礎・基本の知識の定着を図るよう工夫が見られます。

また、次のページの左、「学びを活かそう」では、より深く理解するための課題が示されており、Aさんの生活改善を考えることで、自己の生活の見直しや改善を図り、さらに、話し合いを行い、まとめるように構成され、学んだことを活かす取組が設定されています。

また、次の28ページの巻末資料「学習のまとめ」では、実生活に有効な「重要な言葉」がまとめてあり、生涯を通して健康の保持増進を図れる構成になっております。

次に、98ページをご覧ください。自然災害を取り扱う単元でございます。ここでは、自然災害による危険、備え、行動とまとめられ、100ページのように資料や写真を豊富に掲載することで、複数の資料を比べて読み取る活動や資料から考察、推測する活動ができるよう工夫がされております。

次に、大修館書店『最新 中学校 保健体育』につきましては、初めに、24ページをご覧ください。資料の部分を薄黄色に着色し、本文は見開きで中央に配置され、また、丸数字にタ

イトルが大きく記載されたり、本文中に関連する資料番号があったりと見やすい構成になっております。

「きょうの学習」「課題をつかむ」を活用し『つかむ』、本文、「コラム」「保健の窓」などを活用し『身につける・考える』、「学習のまとめ」「章のまとめ」などから『まとめ・振り返る』というように、3つのステップで授業展開をする構成になっております。

また、欄外には「ほり下げる」や「Web 保体情報館」が掲載され、学習を深められるよう設定されております。

「課題をつかむ」で経験を振り返えることで、自分ごととして捉える工夫がされ、「コラム」等では、さらに知識を広げられるようになっております。

「学習のまとめ」では、AさんやBさんへのアドバイスを自分で考えたり、話し合ったりして、その授業の学習内容を実生活に生かせるような構成となっており、「保健の窓」では、今日的な課題であるスマートフォンを取り上げ、課題を自分ごととして捉え、主体的に考えられるように工夫されております。

次に、106ページをご覧ください。自然災害では、命をおびやかす、避難について、備えと情報入手になっており、資料は中央に見やすくコンパクトにまとめられた構成になっております。その他の関連資料も別ページ、116ページに「特集資料」として掲載されており、生活の中で実践する知識がまとめられて掲載されております。

次に、学研教育みらい『中学 保健体育』につきましては、初めに、28ページをご覧ください。「課題をつかむ」「本文」「考える・調べる」「まとめ・深める」などの4ステップからなっており、「見方・考え方」も示し、課題解決的な学習を進めることができる流れとなっております。そして、主体的・対話的で深い学びが実現できる構成となっております。

「課題をつかむ」では、チェックや問いを考えることにより、学習課題を自分ごととして捉え、課題を見つけるように、「まとめる・深める」では、学習を通して理解したことをまとめたり、深められるように工夫されております。

36ページには、実際に自分の「生活チェック」を行い、自分の生活をもとにして、改善点を見つけさせたり、「考える・調べる」では、他の人の場合を例にして話し合いを行い、改善点を見出し、さらに「まとめる・深める」では、自分の生活の目標を決めて、実生活へとつなげられるように工夫されております。

次のページでは、「探究しようよ」や「章のまとめ」でも4ページにわたり資料を掲載しており、学習が深まるよう構成されております。

次に、116ページをご覧ください。自然災害についてですが、「自然災害」とは「備えと発生時の行動」を学習し、本文中に資料番号が入っており、使いやすいように工夫されております。続くページには4ページにわたり「もっと広げる深める」が掲載されており、活用の仕方にも順に流れ、見やすく工夫された構成になっております。

欄外には、「情報サプリー」や「教科書サイト」といったデジタル教材等が充実しており、深く理解できるように設定されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思いません。ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

○小澤尚久委員 現代のストレス社会ということで、生徒のストレスへの対応等について取り上げているところを、もう一つは、コロナウイルスの対策にも絡めて感染症等への対応についての記載について、それぞれ草加の生徒の実態を踏まえて有効であるところを、幾つか具体的にお示しください。

○説明員 ストレスに対する学習については1年生の「心身の発達と心の健康」という部分で全ての発行者にございまして、自己形成や心の発達というところで、ストレスや健康がどのように体に影響するかということが取り上げられております。実際のストレスが起きたときのリラクゼーションのやり方などが学研教育みらいで取り上げられており、64ページ、65ページに、実際のリラクゼーションのやり方などが実生活につなげ、実際に実践できるよう工夫されております。

それから、コロナウイルスについての記載についてはありませんが、3年生で学ぶ「疾病の予防」、それから感染症の原因や広がりについて「感染症の予防」というものが取り扱われております。そこで飛沫感染などの感染経路やマスクの必要性などについて、どの発行者もしっかりと取り上げられております。また、同じく3年生で学ぶ「健康と環境」でも取り上げられています。

○加藤由美委員 新しい單元として、「がんとその予防」というものが入ってきたと思います。大修館では4ページにわたって説明が出てきますが、「生活習慣病の予防」について各発行者の特徴などがありましたら、教えていただきたいと思いません。

○説明員 今まで「生活習慣病の予防」の部分でがんについては取り上げられておりましたが、今回の教科書からは、「がんとその予防」ということで項目が新しく取り上げられております。ページ数や資料については、大修館の記載量が多いですが、学研教育みらいも90、9

1 ページの見開きで、がんができる仕組みやがんの危険性を減らす5つの健康習慣というものが取り上げられております。

東京書籍と大日本図書も、がんを減らすことやがんと健康習慣についての記載があります。
○加藤由美委員 4ページにわたっているということは、より詳しく載っていると解釈してよろしいでしょうか。

○説明員 他者よりも紙面の上では4ページと多く取り上げられております。ただ、他者もDコンテンツや、他に調べる部分では、発展的に調べることができるようになっております。

○宇田川久美子委員 薬物乱用や危険ドラッグについて、何か特徴的な記載がありましたら教えてください。

○説明員 2年生の「薬物乱用と健康」という項目の中で、薬物乱用、依存について取り上げられています。学研教育みらいでは薬物乱用と薬物依存について、依存性というような言葉を使って薬物依存について詳しく取り上げられております。ページ数は96ページから98ページです。学研教育みらいは、96ページに薬物依存の形成について詳しく資料として取り上げられているという特徴がございます。

また、覚醒剤やMDMAなど様々な写真、アロマ型やハーブ型という写真などもカラーで掲載され、注釈等が書かれております。

○宇田川久美子委員 どの教科書も薬物乱用について載っていますが、何か特徴的に分かりやすい部分はありますか。

○説明員 各者、それぞれ工夫がありますが、どこも特に同じように分かりやすく掲載されております。

○加藤由美委員 先ほども出ましたが、感染症に関して、大修館はほかの発行者よりも2ページ多く取り上げられていて、感染症はこれからもとても身近に起きるものなので、何か特徴があれば教えていただきたいと思います。

○説明員 大修館は確かに134ページから139ページにわたって、資料が多く掲載されております。また、特集資料のところでは、150ページに古来の感染症との闘いが掲載されているなどの特徴がございます。

また、学研教育みらいは、152ページから、やはり4ページにわたって記載され、病原体の写真がカラーであったり、より見やすくなったりしており、164ページの「探究しようよ！」というところでも、更に感染経路や予防、感染経路とワクチンの効果などが掲載されているという特徴がございます。

○川井かすみ委員 感染症の中でも性感染症についての記載の違い等がございましたら、教えていただけますか。

○説明員 性感染症については、3年生で性感染症やエイズについての項目がございます。感染症の種類や感染経路、予防など、性についてのことをそこで学びます。

各発行者とも、記載の特徴ですが、まとめ学習の部分で特徴がございます。東京書籍では、感染症の特徴をまとめて「発展」という部分で予防についてまとめていくというようなところ です。ページは152ページです。また、感染症の後に性感染症という項目があります。

それから、大日本図書は、136ページから139ページになりますが、まとめの部分で、感染症の予防と対策について考えていくという部分が最後の授業のまとめに使いやすいよう工夫されております。

大修館書店は、141ページから143ページの部分で、感染症についての確認をして、まとめをしていくというかたちです。

学研教育みらいは、156ページから169ページで、まず、感染症の特徴を考え、感染者や関係者からの立場から話し合いをするというような流れで掲載されております。

資料写真が全者とも、比較的色彩で掲載されているところが特徴でございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「中学校 技術・家庭」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 技術・家庭〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 技術・家庭科の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態でございますが、生活経験の違い等により、基礎的・基本的な知識・技能の習得について個人差が見られます。技術・家庭における知識・技能は、日常生活に直結し、より豊かな生活を送る上で大切であります。学習過程において、問題を見いだすことや課題を解決するための手だてを考えることで、より実践的・体験的活動を工夫・改善する力が必要であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてございますが、技術・家庭科で学んだことを日常生活に生かせるように、実感を伴った理解をさせることに課題であることから、「実践的、体験的な学習活動」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等について、本市の課題を基にした観点を含めて、ご説明申し

上げます。なお、技術分野については、各者「材料と加工の技術」、家庭分野については、各者「衣食住の生活」を例にとって説明いたします。

まずは、東京書籍でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。18、19ページをご覧ください。導入では、「技術の最適化」で技術の見方・考え方に生徒自身が気付けるように工夫されております。各編の第2章は、問題発見と課題の設定を設けております。38、39ページをご覧ください。日常生活に使われる木材加工作品について、主体的に問題を見だし、柔軟に問題解決に取り組めるようになっております。86ページをご覧ください。各編の学習が終わったら、学習を振り返って資質・能力が身に付いたか確認できるようになっております。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫についてご説明いたします。50ページ以降には、問題解決に必要な基礎的な技能が学べる「TECHLab」がございます。52ページをご覧ください。木材加工の課題に応じて、どのように解決していけば良いか、写真や絵を活用し、手順を追って細かく示され、実践しやすいよう説明されております。76ページの木材加工作品完成後の振り返りをご覧ください。各編に問題解決の「評価」「改善」「修正」が設定されており、製作過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正方法を考え、技術の最適化を考える流れで統一されております。実践的・体験的な活動に役立つ内容に工夫されております。

次に、教育図書でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。巻頭3ページの左をご覧ください。各編とも「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の構成で編集されております。12、13ページをご覧ください。「見つける」では、対話で興味を引き出し、「学ぶ」で理解し、「振り返る」で考えを深めるとし、1時間の流れを分かりやすく示しております。37ページの上をご覧ください。「じっくり学ぼう」を通して、問題解決的な学習として、設計、計画を四つのステップで示し、木工作品での具体的な学習の仕方について提示してあります。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫について説明いたします。52ページ以降には、木材加工の「つくってみよう」がございます。52ページをご覧ください。手順に沿えば木材加工作品が完成できるよう一つ一つの工程説明が丁寧に示され、各工程の重要なポイントも整理されており、生徒一人ひとりが主体的に実践しやすいようになっております。76、77ページをご覧ください。各編の最後に三つの資質能力に分けてまとめられ、特に「主体的に学習に取り組む態度」を問う設問が設定され、生徒が主体的に取り組めているか振り返ることができるよう工夫されております。また、別冊の「ハンドブック」が特徴的で、実践的な活動場面で

は、補助資料となり、学習指導の上で役立つ内容となっています。

次に、開隆堂出版でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。6、7ページをご覧ください。「知識や技能を身につける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」で学習の流れが構成されております。45ページをご覧ください。各編の内容ごとに、PDCAサイクルによる「問題解決の流れ」が設けられており、リンクマークとともに関連性も示され、木工作品を作る際、つまずいたときでも振り返りができるよう工夫されております。92、93ページをご覧ください。各編の最後に「学習のまとめ」が設けられており、身に付けさせたいポイントや振り返るべき要点が端的に表現されていて、理解しやすいよう工夫されております。特に、各内容が「科学的な原理・法則」「技術のしくみ、工夫」の二つの観点で統一されており、リンクページも示され、振り返り学習ができるように工夫されております。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫についてご説明いたします。22、23ページをご覧ください。生活や社会の中にある技術や、技術の見方・考え方に気付くための写真や図が示されております。56ページ以降には、実習例が豊富に設けられております。59、60ページをご覧ください。木材加工作品を作る過程や作品作りに必要な資料をきめ細かく提示し、生徒一人ひとりが主体的に実践できるよう工夫されております。

次に、家庭分野について申し上げます。

まず、東京書籍でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。20、21ページをご覧ください。各編の最初に小学校からの学習の流れを掲載していることや、「家族・家庭の基本的な機能の例」「生活の営みに係る見方・考え方」を掲載し、編の学習に生かせるよう工夫されております。54ページから63ページをご覧ください。「いつも確かめよう」のページが効果的に配置されています。写真やイラストも豊富に掲載されており、言葉では伝えられない細かな点まで見やすく工夫されております。100、101ページをご覧ください。学習してきた内容を振り返ったり、学習の習得を確かめたり、生活に戻したりする問題を掲載しております。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫についてご説明いたします。72ページ以降には、肉調理の実習例が掲載されております。72、73ページをご覧ください。特に料理の下ごしらえについても、きめ細かく丁寧に示すことで、生徒一人ひとりが主体的に実践しやすくなるよう工夫が見られます。併せて、組み合わせ料理の実習例も詳しく掲載されることで、生徒が一つの食事メニューが作れるように工夫されております。35ページから37ページを見開き

にしてご覧ください。六つの食品群について、手や目で量ることで1日に必要な栄養が分かるよう工夫された掲載となっており、材料の選択に大変分かりやすい表記となっております。

次に、教育図書でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。72、73ページをご覧ください。各章では、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の流れで学習が行えるように掲載されております。「話し合ってみよう」や「考えてみよう」などを設定することで生徒が学習内容を理解しやすいよう工夫が見られます。102ページをご覧ください。左上に「学びを生かそう」と掲載がありますが、各章の最後にこれまでの学習を生かして自分で課題を設定して考えていく場面を設定し、生徒が主体的に学習できるよう工夫が見られます。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫についてご説明いたします。124ページ以降には肉調理の実践例が掲載されております。125ページの下をご覧ください。調理後には振り返りができるよう工夫されております。右側には献立アレンジや弁当作り等、発展内容が掲載されております。144、145ページをご覧ください。「組み合わせでつくろう」では、献立の検討する際に具体的に考える視点を示されており、生徒が日常生活で実践しやすくなるよう工夫されております。

88ページから90ページを見開きにしてご覧ください。「6つの基礎食品群と食品群別摂取量のめやす」では、6群をサイコロ表示しております。95ページから97ページを見開きにしてご覧ください。サイコロ表示で関連付けて食品成分表を標記することで、分かりやすくなるよう工夫されております。

最後に、開隆堂出版でございます。初めに、教科書の構成についてご説明いたします。70、71ページをご覧ください。各単元の最初に、興味関心を高めるよう吹き出しを表記するとともに、右下や左下にあるようテーマについて自己を見つめ、振り返る場面を設定しております。72ページから77ページをご覧ください。小單元ごとに、振り返りや生活に生かすことについて考える場面を設定しております。155ページをご覧ください。資質・能力に合わせた問題を設定し、生徒が学習を身に付けられたか確認できるようになっております。

次に、実践的、体験的な学習活動の工夫についてご説明いたします。116ページ以降には肉調理の実習例が掲載されております。117ページをご覧ください。組み合わせ例や配膳例等を掲載することで、生徒が主体的に家庭生活で実践できるよう工夫されております。111ページの右下をご覧ください。包丁の使い方について左利きの場合も含め詳しく説明がされており、全ての生徒が実践できるよう工夫しております。88ページから93ページを見開きにしてご覧ください。六つの栄養素について、大きな写真を使って分かりやすく体に摂取する目

安が掲載されております。88ページの左にはそれに合わせた献立例が掲載され、生徒が献立作りを実践しやすいよう工夫されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

○宇田川久美子委員 今、開隆堂の説明の中で、左利きの包丁の使い方のことがありましたが、ほかの発行者はどうでしょうか。

○説明員 各社、新しい教科書の特徴として、QRコードを使用した動画等を取り入れております。包丁やはさみ等、サイトに使い方についてそれぞれ詳しく説明されておりますが、その中でも開隆堂出版は、左利きの説明があったことが特徴的でした。

○宇田川久美子委員 技術や家庭は、分かりやすくするには動画がポイントかと思うのですが、今のウェブコンテンツなどで特徴的なことはほかにありますか。

○説明員 各者、動画だけではなく、それぞれ具体的な説明等もそのコンテンツで見られるように工夫されています。それぞれの特徴ですが、各ページの学習過程で、そのページにQRコードを載せている場合と、最後のページにコンテンツ一覧表という形で、教科書の全体を示した表記の方法と2通りが見られました。

○村田悦一教育長職務代理者 今、家庭のところで食事の役割や食習慣の説明がありましたが、保健体育のところでも、健康な生活で運動や食事、休養や睡眠とあり、食事のことが重なってきますが、例えば、教科間で年間指導計画の中の似たところで、食事以外にもいろいろなところがあると思うのですが、そういうことは取り組んでいるのでしょうか。そうではなくて、あくまでも保健体育、家庭ということで、それぞれで授業をして関連付けているのでしょうか。より近く、一緒に授業をしていくことによって、指導の効果が出てくるとは思います。実際はいかがでしょうか。

○説明員 保健体育との関連性ももちろん深めますが、例えば、保健の「早寝早起き朝ごはん」というフレーズが草加市にあります。そういった関係で、養護教諭との関連もありますし、特に家庭分野では、学校栄養士との関連も深く、栄養素、栄養分の大切さについては、お互いが関連性を持って各校取組を進めているところでございます。

○村田悦一教育長職務代理者 もう一つ、どのように年間計画については組まれていますか。例えば、家族、家庭と地域の生活など最初に載っていますが、草加市では、中学生向け「親の学習」講座を全中学校で行っています。そういった講座と関連付けることができているのか、

そこまではうまくできないのか、草加市で特に力を入れている「親の学習」講座と、この家庭分野の指導との関連性は取れているのでしょうか。

○説明員 年間計画の中で、「親の学習」講座に併せて授業を行っていくということは、なかなか難しい部分がありますので、必ず授業の中で「親の学習」講座との関連性を持たせながら学習するなど、授業の中で生かしていくように努力しています。

○村田悦一教育長職務代理者 「親の学習」ということと、ここに3者あるわけですが、内容的にはこれが草加として「親の学習」と関連性があるという教科書はありますか、あまり変わりませんか。

○説明員 内容的には変わりませんので、どのように関連付けるかということが大切になります。

○川井かすみ委員 SDG sに関して、記載に特徴などがございましたら、教えていただけますでしょうか。

○説明員 各者、SDG sについては、今年度取り入れられているのですが、特に家庭分野については、持続可能な社会の実現が現代の諸課題の一つであり、適切に解決できる能力を育成できるよう、今回の改訂で、内容を充実させています。

東京書籍では、巻末に「持続可能な社会を目指して」を紹介しております。第1編から第4編の最終節は、持続可能な生活を目指した内容で構成されています。

教育図書については、238ページ、C編の消費生活と環境の冒頭でSDG sについて大きく取り扱っています。一人ひとりが環境への配慮を重視することができるよう、環境マーク等を示して、取り上げております。

開隆堂出版では、7ページをご覧ください。ガイダンスによって「生活の見方・考え方」の一つとして、国連の取組として持続可能な社会、SDG sを示しております。各章の章末は持続可能な生活を目指した内容で構成されています。

○高木宏幸教育長 今回の指導要領の中で、小学校は既に新学習指導要領に基づいた教科書で授業を行っているわけですが、特にその中の措置として、プログラミング教育が挙げられます。中学校における技術・家庭という教科は、プログラミング教育の中心をなす教科であると思いますが、小学校から積み上げてきたプログラミング教育と技術・家庭の関連性、連続性について、それから、技術・家庭の場合は小学校と比べるとかなり専門的で、専門的な用語等も含めて入ってきていると思いますが、このプログラミング教育について、各者の教科書の特徴で何か特筆すべきことがあれば、教えていただきたいと思います。

○説明員 小学校でプログラミングを体験して、中学校に入学してきます。その中でどのように扱うかという、東京書籍では、「プログラミング手帳」を別冊付録として付属しており、簡単なプログラミングをいつでも体験できるようにしています。小学校で学習するプログラムを体験できるウェブページをDマークコンテンツ、QRコードで用意しています。

開隆堂については、プログラムの考え方やプログラミング言語の特徴など、基礎・基本を学べるようになっています。例えば、206、210ページをご覧くださいと思います。実験で実際に作成して学んだことを定着させ、問題解決へと移行していくという取組になっています。

教育図書は、206ページや別冊のハンドブックがありますが、こちらでプログラミングとは何か、どのようなことができるのか、基本的な使い方等を紹介しております。

中学校では、パソコンが導入されて25年ぐらいになりますが、最初の頃に、DOSというものを使った、画面上で点を動かすようなプログラム教育を実は行っています。そこから、コンピューターの進化と社会の発展とともに、フローチャート形式にして、更に生徒たちが深く学べるような形で、今、中学校では教育課程の中に導入されていますので、特にコンピューター制御ということで、例えば、物を何メートル、何センチ先のゴールに移動させるというプログラムを生徒たちに作ってもらい、その中で課題が見つかったり、少し反れてしまったりと様々な問題が生じてきますので、課題解決するためにまたプログラムを使うことで、学びながら課題解決に向けて取り組んでいます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、中学校「外国語」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 英語〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 外国語（英語科）についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態を申し上げます。小学校3、4年生からの外国語活動では、「話すこと」「聞くこと」の音声指導に重点を置き、小学校5、6年生では音声で十分慣れ親しんだ英語を読んだり、書いたりする内容が加わり、意欲的に英語を学習している姿勢が見られます。「伝えようとする内容を整理した上で」話すことを目標にしていた小学校の言語活動から、中学校新学習指導要領では、「即興で」発話する力、発信する力が求められています。したがって、事前に原稿を書き、それを暗唱して発表するのではなく、既習の知識や技能、表現を駆

使して、その場に応じて、相手に応じて、発信する力、即興力を育成することが必要であると言えます。

その草加市の生徒の実態を踏まえて、観点についてでございますが、「即興的な言語活動を通してコミュニケーション能力を育成できる工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍でございます。小学校外国語とのつながりを重視し、1年生のUnit 5までは、小学校で学習した内容を振り返ることができるようになっています。1年生、12ページをお開きください。Enjoy Communicationでは、小学校で習った表現を使う会話活動があり、「小学校の単語」で既習の単語が記されていて、巻末には、小学校の単語の一覧表があり、小学校英語とのつながりを重視しています。また、65ページのような「学び方コーナー」が全学年にあり、1年生では、辞書の使い方や文字指導、2年生では、効果的な単語の覚え方、3年生では、レポートの書き方、文章の組み立て方など、主体的な学習態度を育成する題材があります。さらに、A4判の大きめの紙面を利用し、豊富な資料や写真、書き込み可能なページが多くあることも特徴です。1年生56ページには、小学校で重視された「Small Talk」が中学校でも継続して行われるページがあり、簡単なメモを見て発表したり、即興で話したりする力を伸ばすことに有効であると言えます。

次に、開隆堂出版でございます。1年生103ページ、Program 9をお開きください。扉のページでは、その単元の右下にGoalが示されていて、フィンランドがどんな国かという動機付けがあります。次の104、105ページをお開きください。右上のTryでは、毎時間の授業において、短時間で即興的に活動できる課題が提示されていて、継続的な英語力の積み上げができます。新出表現の導入は、全学年とも左側のScenesの2コマ漫画形式で示されており、全ての文字が読めなくても内容が推測できるようになっています。109ページには、本文読解後のRetellという活動があり、本文内容を自分の言葉で伝えたり、主人公になったつもりで内容を伝え合ったりする活動があり、即興的に英語をアレンジするコミュニケーション力、表現力を高めることが期待できます。125、126ページのOur Projectのコーナーでは、1年生では、「1枚の写真について」、2年生では「夢の旅行について」のスピーチ、3年生では、「記者会見を開こう」で、やり取りやディスカッションができるようになるなど、3年間を見通した題材でコミュニケーション力を育成する構成となっております。

続きまして、三省堂でございます。各単元の始まりの扉は、興味を引く写真があります。1年生69ページをお開きください。これから学習する意欲が高まり、70ページには、GET (P

art 1) で本文紹介があり、右ページでは聞く、話す、書く活動で、文法や基礎的な知識を習得させることができます。また、74ページのUSEでは、下段に本文理解を助けるワークシートとしての機能が十分に準備されていて、授業で活用することができます。さらに、78ページのTake Actionシリーズでは、実際の場面で使用される言語材料が配置され、楽しく、深い学びを引き出しています。巻末の付録30ページには、会話に役立つ表現がまとめられていて、付録33ページには、ロールプレイングシートがあります。1年生では「あなたは洋服店で働く店員です。Tシャツをお勧めしてみましょう」や、2年生では週末の予定についての会話、3年生では友達と遠足の行き先を検討し合うなど、多彩な場面が用意され、授業で楽しく活用ことができ、即興的にコミュニケーション力を鍛える題材が盛り込まれております。

次に、教育出版でございます。特徴あるものから説明させていただきます。全学年に赤いマスキングシートが付属されております。1年生133ページをお開きください。シートを活用することにより、繰り返し学習ができることが特徴となっています。134ページをご覧ください。赤シートの活用によって、基礎的・基本的な知識の積み上げが期待できます。また、次ページの「Topics for Speaking」では、即興でチャットやスピーチが展開できる話題が示されており、発話力の育成が期待できます。30ページをお開きください。「友達と1分間チャットをしてみよう」など、小学校での音声指導に趣を置きながら、段階的で、読む、書くことへの充実につながる構成となっています。65ページのように、扉の多彩な写真で興味関心を引き出し、66ページのPart 1では、本文やリスニング問題、言語活動など4技能がバランスよく盛り込まれています。96ページのProjectのシリーズでは、オリジナルの標識を考えて発表、2年生では日本文化紹介、3年生ではCMを作って発表しようなど興味深い話題で深い学びにつなげています。

次に、光村図書出版でございます。1年生145ページをお開きください。「その場でスピーキング Let's Talk!」という付属教材が付いており、教材をめくると、授業の帯活動で活用しやすい題材が盛り込まれています。2年生、3年生では内容も発展し、既習の言語を繰り返し用いることにより定着を図ることができます。144ページのYour Coachでは会話をつづけるコツや、102ページのYour Coachでは音読がうまくできるようになるためにはどうしたらよいかなど、生徒が抱える素朴な質問に答えるページとなっており、学び方のコツなどを紹介し、自律的学習を支援しています。また、136ページをご覧ください。Story Retellingでは、本文理解がされた後、自分の言葉で本文の内容を伝える活動があり、即興力の育成が期待できます。絵を見ながら物語を伝える中で、英語で発話する力が育成されます。巻末1

45ページをお開きください。Active Wordsでは、Story RetellingやLet's Talk!で活用できる語彙が、種類別にまとめられており、単語のspellingのみならず、絵とともに単語の意味が分かるような工夫があります。読み物教材も豊富で、学年が上がるにつれ、語彙数も増え、総ページ数が多いことも特徴となっております。

最後に、新興出版啓林館でございます。1年生20ページをご覧ください。Let's Startでは、小学校との接続を考え、7時間単位分の復習ページが構成されています。22ページから、通常のUnitが展開され、見開き2ページのGet Readyで本文紹介、Practiceで口頭練習、Useでその英語を使う場面が設定されていて、右下には、「書くこと」でまとめており、4技能がバランスよく配置されています。100ページRead and Thinkをご覧ください。興味を引く写真とともに英文が示されています。通常、多くの教師が読み物教材を扱うときに、ワークシートを準備しますが、右下のUnderstandingがあるので、本文理解の際に効果的に活用できるような教材があります。また、124ページの付属のページでは、「グリーティングカードを書こう」の単元があり、バースデーカード、年賀状の例が示されています。次の126ページ「英語のつづりと発音」では、英語の発音の仕方が詳細に示されています。150ページ「Can-Doリスト」では、4技能5領域において、自分がどのくらいできるようになったか確認するページがございます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

○小澤尚久委員 調査・研究の観点に即興的な言語活動ということが挙げられていますが、どの教科書にも取り上げられていると思います。草加の子どもたちが小学校から積み上げてきたもの、その実態を考えて、より効果的な取組をいくつか挙げてください。

○説明員 英語の時間は週に4時間ございますので、なるべく毎時間即興的な活動をする時間があつた方が、第二言語を習得する意味ではとても有効なのではないかと考えられます。そうすると、開隆堂の各ページには、例えば41ページの右上に、友達に普段することを聞いてみよう、43ページになると、できること、できないことについて話そうと、毎時間授業で、先生が短時間で即興的な活動を行える内容が盛り込まれています。

また、教育出版においては137ページに、即興のチャットやスピーチを試みようがあり、毎時間先生が授業の始めに、今日はsummer vacationについて話しましょうと、授業で即興時間を取ることもできます。

また、開隆堂や光村図書出版には、Story Retellingというコーナーがあり、光村図書の137ページのように、一度本文で学んだものを、絵を見ながらもう一度自分の言葉で本文の内容を伝え合うという活動は、即興力を育てるのに有効かと思えます。

○宇田川久美子委員 東京書籍の判が大きいのですが、大きいから直接書き込むことができるというお話がありました。ノートは別に用意があることを考えると、この大きいことの利点と、不具合があったら教えてください。

○説明員 A4判の紙面で資料が大きく掲示されているということで、大変分かりやすいということと、草加市独自の教材でセンテンスマラソンという教材を全中学生に配布していますが、そこには4線が引いてあって、1,000文書いていこうというノートになっていて、例えば、東京書籍を使う場合は、見開き2ページで会話活動があって、英文を読んで、この下に書いてみようということで、教科書見開き2ページで全てが完結するような形になっているので、生徒たちが復習するときに、このページを開くと4技能が全てが載っているという部分で、大きな紙面を利用して、4線が載っているということが大きな特徴ではないかと思えます。

○加藤由美委員 開隆堂の最後にカードがあります。1年生から3年生まで全て同じカードですが、どのように使うのか教えてください。

○説明員 小学校では、このような単語を口頭で話すだけで終わってしまいますが、このカードの後ろに文字がありますので、カルタみたいな活動で、単語をインプットするときに使えます。また、ここにある動詞は全て基礎となる動詞で、英文を読むためには必要な動詞ですので、3年生になってカルタに取り組むかは分かりませんが、2、3年生だと、この単語を見ながら、過去形、過去分詞形を言ってみよう、同じ絵を見て、こういう動作はこの単語だという連想する意味では、全学年を通して使えるのではないかと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 うまく言えないのですが、英語を学ぶ意味というか、例えば、草加の生徒の実態で、小学校では「伝えようとする内容を整理した上で」、これは当然英語ではなくて、日本語で行います。そのことができなければ、日本語で表現もできないし、英語でも表現できないということになってしまうのか、逆に、こういう「即興で」コミュニケーション能力を高めていけば、最終的には英語で考えて英語で話せるということになるのでしょうか。私は、日本語を英語にして、英語を日本語にして考えてしまうのでうまく話せません。そういう意味で、日本語と英語はかなり違いますので、学ぶにはかなり抵抗がある中で、現在は小学校3年生の外国語活動から5年では英語を学んで中学生になり、英語をまた学びます。本当に英語で考えて、伝えようとする内容を英語で整理して話していけるようになっていけるのでし

ようか。目指していることだとは思いますが、実際にはいかがでしょうか。

○説明員 おっしゃるとおり、そこが最終目標になると考えています。例えば、今、ご質問があったこのカードに、掃除している絵がありますが、裏側に「掃除をします clean」とは書いてないわけで、このような動作をcleanとして子どもたちはインプットするわけで、cleanとこの動作の間に日本語が入らないのが今の英語教育だと思います。

小学校3年生の授業でも先生方は単語だけで授業を進めていて、ほとんど英語で授業をしている先生方をよく見ます。子どもたちに伝わっていないのではないかと大人は不安になりますが、動作を見せれば、その動作と先生の音が結び付いて、そこには日本語が存在しないという授業が理想の授業ではないかと考えています。

○高木宏幸教育長 英語教育は四つの技能を、言語活動を通していかに英語でのコミュニケーションを図れる資質・能力を育成していくか、ここにかかっていると思うのですが、今、話にあったように、即興的というのは、反応してということで、どうしても間違いを恐れると即興的というのはなかなかできないと思います。生徒によって、完璧な文章もあり得るし、一つの単語、キーポイントの単語を言うことで伝えることもありますし、そういうことを恐れずに、どんどん日常的にそういう場面を作っていく必要があると思っています。

そういった中で、この教科書を見ていて特徴的だと思うのは、開隆堂の通常の教科書のオーソドックな作りは、会話文があったり、英文があったりして、そこで本時のターゲットセンテンスが入って、新しい単語が入った構成になっています。作りとしてそういう流れが多いと思います。開隆堂はScenesとあって、漫画ですが会話、場面、そのセンテンスで使われている場面設定を非常に重視しながら作られていると感じました。これまでの作りと少し違うように感じますが、現場の先生方の活用を含めて、どのように受け止めますか。

○説明員 新出表現を授業で導入する際に、現場の教員がまだ教えてもない英語表現を、ALTと一緒にこのScenesのような動作をして、今、先生は何を言ったかと推測させるということがとても重要になっていて、第二言語ですので、全ての単語が分からなくても、こんなこと言っているのかと考えるところから練習して行って、表現を身に付ける授業が主流になっています。先生方がその導入をしなくても、このScenesが、2コマ漫画、これは3年生までずっとありますが、今までにないところだと思っていて、ALTと動作をしながら、文字と音をつなげたりという形で活用できるのではないかと思います。

○高木宏幸教育長 もう一点。今度の指導要領の中に、辞書の使い方について、明確に慣れて活用できるようにすることと、辞書を使うことによって自学自習、また、積極的に単語でも文

章でも自分で作っていくということを考えたときに、辞書の活用というのは大事なポイントかと思うのですが、この辞書の使い方についての各者の取り扱いで何か特筆すべき点があれば教えてください。

○説明員 全者、中学校1年生の教科書で辞書の使い方についての記述があります。例えば東京書籍ですと、9ページのように「学び方コーナー」ということで、辞書の語順の配列や、実際に「m」で始まる単語でもどの順番で並んでいるのか引いてみよう、このような形で辞書の使い方について全者記載がございます。

開隆堂につきましては、1年生にも同じようなページがあるのですが、2年生では、6ページに「辞書を読んでみよう」というページが掲載され、3年生、6ページでも、「辞書を使いこなそう」ということで、段階的に発展しているページがございます。

○加藤由美委員 教科書と離れてしまうかもしれませんが、前回教科書を採択するときに、小学校6年生の研究授業で、とてもいい研究授業を見させていただいて、子どもたちの英語に対するまぶしい笑顔が忘れられません。子どもたちが中学校に上がって、英語の学習についてはいかがでしょうか。

○説明員 その子どもたちが中学校に入ってから授業も、実は先日見る機会があったのですが、小学校英語から大分変わってきたことによって、中学校も文法中心の授業から言語活動、自分の気持ちや考えを伝えるような言語活動中心の授業に変わってきた経緯もありまして、その子どもたちは非常に楽しく授業をやっている光景がありました。

○高木宏幸教育長 他にご質問、ご意見はございますか。

それでは次に、「中学校 道徳」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 道徳〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、よろしくお願ひいたします。

○説明員 道徳の教科書についてご説明申し上げます。

初めに、草加市の生徒の実態でございますが、近年の中学生のスマートフォンの高い所持率に伴い、SNSにおいて、何気ない一言で相手を傷つけたり、いたずらに画像をアップして相手に嫌な思いをさせたりする状況が見られます。そのため、ネットトラブルによるいじめへの対応が求められています。本市においても、いじめ防止の根源となる「いのちの大切さ」について、考えを深めることのできる生徒の育成が必要であると言えます。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてございますが、いじめの防止の根源

となる「いのちの大切さ」を実感できる工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第2学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、まず、目次をご覧ください。「いじめのない世界へ」と「いのちを考える」を全学年で設け、3教材をまとめたユニット構成になっております。一つのテーマについて多面的・多角的に考えられるように工夫が見られます。次に、23ページをご覧ください。「いじめのない世界へ」のユニットでは、「間接的教材」、「直接的教材」、「いじめ問題と向き合う教材」の三つの教材に分けられており、多様な道徳的価値に気づき、考えさせることができるように工夫されております。24ページの「間接的教材」では、主に傍観者の立場の教材を扱い、いじめ問題を様々な立場から考えられるように工夫されています。それに続く、28ページの「直接的教材」では、主人公が友達をいじめていた側に立ちつつも、時間がたつにつれ苦悩する気持ちがストレートに表現されております。さらに、最後の31ページ、「いじめ問題と向き合う教材」では、いじめられた側の心の傷跡に触れることで、「いじめをしない、許さない心」を育みます。また、生命尊重のユニットも同様でございます。次に、142ページをご覧ください。全学年で、役割演技を主体とした「アクション」というコラムを2か所ずつ掲載し、役割演技や体験活動を通して議論する教材を設定しています。実際に当事者として体験することで、道徳の問題を自分のこととして考えることができる工夫がされております。

次に、教育出版につきましては、初めに、目次をご覧ください。「生命の尊さ」と「いじめ」、「差別問題」につきましては、薄いグリーンとブルーで示され、ユニット構成になっており、3学年を通して深く考えていく工夫がされています。30ページをご覧ください。教材名の下に、教材の内容に関するキーワードやこれまでの自分を振り返る発問が掲載されており、道徳的価値の大切さを自分との関わりで考えることができるようになっております。次に、35ページをご覧ください。各教材の末尾には、「学びの道しるべ」を設け、三つの発問を通して、教材理解だけでなく、自分事として物事を捉えさせるなど、様々な立場から考えたり、考えを深めたりすることができるように工夫されております。次に、107ページをご覧ください。「やってみよう」では、役割演技や話し合いの方法などが記載されております。生徒が主体的に話し合い、学習を深めることができるようになっております。次に、146ページをご覧ください。この「三年生を送る会」は、「けやき中」を舞台にした教材のシリーズとなっております。1年生や3年生にも掲載され、このシリーズを3年間通して学習することで、主人公の気持ちや

行動を通して、生徒自身が自分を見つめ、成長できるよう工夫がされております。

次に、光村図書出版につきましては、初めに、目次をご覧ください。学校生活の実態と、それに伴う生徒の成長を考慮して、1年間の学習を三つのシーズンに分け、内容項目間の関連を意識した配列になっております。そして、シーズンの中は、テーマを持ったいくつかのユニットに分かれています。次に、14ページをご覧ください。教材名の右上には、内容項目が記載されており、学習指導要領の四つの視点を色と印から見分けられるようになっております。次に、16ページをご覧ください。教材の最後に、「考えよう」を設け、「吹き出し」の部分で、この教材で何を学んでいくのか「めあて」をはっきりと意識できるよう工夫されており、その下の問いで、生徒が「めあて」に迫ることができるようになっております。また、「見方を変えて」では、「考えよう」の問いとは別の立場や視点から「めあて」を捉え、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるよう工夫されております。そして、「つなげよう」では、学んだことを自分に生かすための問いがあり、生徒が自分との関わりで理解できるようになっております。次に、37ページをご覧ください。「深めたいむ」では、前の時間に学んだことを、活動を通して更に深め、学習したことを日常生活につなげられるように工夫されております。

次に、日本文教出版につきましては、別冊として「道徳ノート」が付属されております。別冊2ページをご覧ください。全ての教材に対応しているため、ワークシートとして活用できます。また、生徒の記述欄も自分の考えや友達の意見、話し合いのメモ等、自由に記入できるようになっております。次に、教科書の目次をご覧ください。「いじめ問題」を重点的に扱い、複数の教材を組み合わせたユニットを年間に複数配置して、集中的、継続的に考えることができるよう工夫されております。次に、80ページをご覧ください。教材名「ネット将棋」の上部に主題名が記載され、主題名の下部には、教材の登場人物が紹介されており、生徒が教材内容を把握しやすいような特徴がございます。また、この教材のように、情報モラルに関わる内容を3年間扱い、情報社会の倫理や情報セキュリティに関わる内容について、発達段階に応じて学習できるよう工夫されております。次に、83ページをご覧ください。教材末尾の「考えてみよう」や「自分に+1」では、ねらいに迫るとともに、様々な視点で考えを深められるよう工夫されております。

次に、学研教育みらいにつきましては、巻頭2ページをご覧ください。「考えを深める4つのステップ」として、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」についてまとめられており、道徳科で学ぶこと、考えることが分かりやすく示されております。次に、8ページをご覧ください。「命の教育」を重点的に扱い、「生命の尊重」と「いじめ防

止」に関する様々な内容項目の教材を用いて、複数の観点から「いのちの大切さ」について考えられるよう工夫されております。次に、16ページをご覧ください。教材の冒頭には、教材名「旗」がございますが、主題名を記載しないことで、生徒が主体的に考え、他者との対話を通して考えを深め、自分を見つめられるように工夫されております。次に、21ページをご覧ください。教材末尾の「クローズアップ」における関連情報により、学習内容について、より深く考えられるように工夫されております。このような特設ページはほかに、60ページのような「クローズアップ・プラス」や、89ページの「深めよう」が設けられており、特に「深めよう」では、役割演技等や話し合いの手だてが記載され、生徒が主体的に話し合い、考えを深めることができるように工夫されております。

次に、廣済堂あかつきにつきましては、教科書の10ページと別冊「中学校の道徳ノート」の8ページを併せてご覧ください。別冊の「道徳ノート」を併用する構成となっており、発達段階に応じて道徳的諸価値の解説が端的に示されております。また、教科書12ページがございます、教材の最後の「考える・話し合う」では、複数の問いを設定して多面的・多角的に考えられるように工夫されております。そして、教材末尾の「葉っぱのマーク」で内容項目に沿った、価値理解を深める名言が提示されており、授業の余韻を残したり、終末で活用したりできるようになっております。この教材は、「情報モラル」について扱ったものでございますが、「情報モラル」について巻末に特集ページが設けられ、160ページがございます「情報機器と私たちの生活を考える」では、国語や技術・家庭、特別活動などの他の教育活動とも関連を図りながら活用できるよう工夫されております。次に、99ページをご覧ください。教材名「天使に舞い降りた朝」につきましては、内容項目「生命の尊さ」についての教材となり、「生命尊重」に関する教材を全学年で3教材配置し、3年間を通して系統的に学習するとともに、様々な視点から考えられるように工夫されております。

最後に、日本教科書につきましては、初めに、目次をご覧ください。教材が内容項目ごとに順番にまとめられており、また、各教材の番号は、学習指導要領の内容項目と対応したものが記載されております。学校、生徒の実態に合わせて、教材を選択できるように工夫されております。次に、48ページをご覧ください。「リョウとマキ」という教材でございますが、共通の主人公の教材が3年間を通して掲載されており、発達段階に応じて主人公とともに自分を見つめ、考えを深めることができるように工夫されております。次に、124ページをご覧ください。教材名「15分間のクリーン作戦」では、生徒にとって身近に感じることのできる学校での出来事についての教材となっており、生徒が自分事として考えを深めることができるよう

工夫されております。次に、127ページをご覧ください。教材の文末がオープンエンドになっており、生徒が自然とその後の展開を考え出す仕掛けがあるなど、多面的・多角的に捉え、考えることができるように工夫されております。そして、各教材末には、「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」が掲載され、自己を見つめ、物事を広い視野から考えて、生徒の思考を促すことができるような問いが提示されております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員　草加市は人権尊重都市宣言を制定しましたが、その人権について各者何か特徴ある内容がございましたら、教えていただけますでしょうか。

○説明員　各発行者とも人権尊重に関する教材をいくつか扱っております。その中に郷土の教材を加えて取り上げるなど、1年間で行う35時間の年間指導計画の中に盛り込むことで、人権尊重についての考えを深めることができるものと思います。

○加藤由美委員　いじめられている生徒の立場から考える教材を取り扱った発行者などは、ありますか。

○説明員　いじめに関わる教材については、主人公がいじめをしている立場や傍観者の立場など、多数の教材がございます。どの立場の教材でも、生徒に考えさせる視点として、いじめられている立場について触れることで、様々な角度から考えを深めさせることができると思われます。特にいじめられている立場で考えられることのできる教材といたしましては、例えば、東京書籍の2年生、「あの子のランドセル」という教材がそれに当たると思います。

○宇田川久美子委員　道徳という教科は正しいというものがないと思うので、評価をどのような観点でされるのか、また、それに沿って教科書がどのような位置付けになるのか教えてください。

○説明員　各内容項目について、教科書を含む教材を利用して生徒たちに指導していくわけですが、生徒たちの変容については、1時間の授業だけでどのような成長が見られるのかを見取することはまずできないと思います。1年間の道徳の授業を通して、考えがどのように変容していったか、そういった意味で見取ることが重要だと思います。教科書の末尾に各者とも学びを振り返るページ、あるいは、別冊道徳ノートの活用など、その都度その都度、生徒たちがどのような考えをもち、また、継続的指導をする中でその考え方、価値がどのように変容していったのかを見取することで、適切に評価をしていくことができると考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 道徳は心の勉強ということで、共感的理解がより望まれるのかと思うのですが、学研の1年生に「日本の心と技」という教材にドナルド・キーンさんが出ていて、草加の子どもたちにとって、あるいは保護者も含めて、身近な方が載っています。埼玉県に関わるような人物や教材など、この7者の中で、草加や埼玉に関わるようなところが多くある発行者はありますか。

○説明員 草加についてでございますが、特に草加の郷土について扱った教材というものは特に見当たりません。

また、特に埼玉に視点を絞った教材もあまり見受けられることはございませんが、ただ、その他の教材、副教材や新聞等の教材、そういったもので埼玉にゆかりがある題材をもとにして、郷土埼玉を考えながら道徳の価値項目につながるというような教材を使用しながら指導していくことも可能かと考えます。

○村田悦一教育長職務代理者 私が見た中では、例えば全盲の中学校教師や寄居の男衾中の出身のもの、国宝になった妻沼聖天山、熊谷の荻野吟子、あるいは瀬戸大也も埼玉ですよ。そういう意味で、特に色濃く、多く扱っている発行者はあるのでしょうか。

○説明員 正確に把握できていないところもございますが、一つの発行者で三つも四つもということはないかと考えております。ただ、「彩の国の道徳」など、そういった教材等も併せながら指導していくことで、郷土埼玉を学びながら、内容項目に示された道徳的諸価値にせまる指導をしていくことが考えられます。

○加藤由美委員 日本文教出版の1年生と3年生、1年生の教科書の42、43ページ、3年生の34、35ページに、「怒りの感情と上手につき合おう」、「私たちはなぜ人を攻撃するの」という項目がありまして、いじめの根源ということを感じてしまいました。怒りをどう抑えたらいいか、自分の感情をコントロールする方法が記載されていますが、そのような内容が他の発行者でも記載されているようでしたら、教えていただきたいと思えます。

○説明員 各発行者とも特設ページ等を設けて、コミュニケーションの仕方を見直したり、自分の気持ちを相手にどのように伝えたら、うまく相手に伝わるだろうか、といったことが考えられるように工夫したりしている発行者がいくつかございます。例えば、教育出版、1年生58ページの「コミュニケーションの仕方を見直そう」、光村図書出版、これも1年生でございますが、28ページ、「自分の気持ちを相手に伝えるために」というような教材がそれに当たると考えます。

○高木宏幸教育長 草加の生徒たちの実態を踏まえて、道徳についての、特に実態も含めた調

査・研究の観点として、命の大切さを実感できる工夫ということを掲げているわけですが、先ほどの説明の中でいじめ、それから生命の尊さ、これはユニットで扱っている教科書があります。これは先ほどの説明の言葉で言うと、集中的に、継続的にやれる良さがあるというような説明をされていて、そういった利点はあると思いますが、ほかのユニットでない発行者の構成でもいじめや生命の尊さについて、十分な教材を用意している発行者もあると思うのですが、ユニットを構成しているか、していないかは、どのように捉えていますか。

○説明員 ユニット化されていることによって、連続して、例えば、生命尊重やいじめ問題について、連続的に考え、考えを深めることができるという利点もあると思います。

ただ、ユニット化されていない発行者につきましても、例えば、いじめ問題、生命尊重に関する教材については、一つだけではなくて、三つ、四つの複数の教材がどの発行者も準備されております。それをうまく組み合わせることで、その学校は生徒の実態に応じて、生命尊重や、いじめ問題に関わる内容を連続的に扱うことで深めることができるものと考えております。

○高木宏幸教育長 ほかにご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより、保健体育、技術家庭の技術分野、家庭分野、英語、道徳の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認します。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、私から投票していきます。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、加藤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

保健体育、大日本図書株式会社 1 票、株式会社大修館書店 3 票、株式会社学研みらい 2 票。

いずれも過半数に至りませんでした。

次に、技術家庭の技術分野、東京書籍 2 票、開隆堂出版株式会社 4 票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

技術家庭の家庭分野、東京書籍株式会社 2 票、開隆堂出版株式会社 4 票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

英語、開隆堂出版株式会社 6 票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

道徳、東京書籍株式会社 2 票、日本文教出版株式会社 1 票、株式会社学研みらい 2 票、廣済堂あかつき株式会社 1 票ですので、いずれも過半数に至りませんでした。

保健体育については、過半数を超えず、3 票同数にもならなかったため、次に 5 点満点評価による投票を行い、合計点が過半数を超え、最も高いものを採択したいと思います。過半数は、5 点満点評価ですので、1 者に入る点数は最大で 30 点ですので、16 点とします。

これから委員の皆様にご投票用紙を配付いたします。全ての発行者に 5 点満点で評価をしてください。ただし、1 者に必ず 5 点をつけて、それ以外の発行者につきましては、1～4 点の評価をつけてください。

記入はお済みでしょうか。

先ほどと同様に投票してください。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、先ほどと同様に確認願います。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

保健体育、東京書籍株式会社 6 点、大日本図書株式会社 11 点、株式会社大修館書店 21 点、株式会社学研みらい 17 点ですので、株式会社大修館書店といたします。

続きまして、道徳についても同様の形で点数をつけるよう、お願いいたします。

記入はお済みでしょうか。

投票してください。

(投 票)

○高木宏幸教育長 では、確認願います。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

道徳、東京書籍株式会社 13点、教育出版株式会社 6点、光村図書出版株式会社 6点、日本文教出版株式会社 10点、株式会社学研教育みらい 21点、廣済堂あかつき株式会社 10点、日本教科書株式会社 6点ですので、株式会社学研教育みらいといたします。

以上でございます。

以上で、第39号議案につきましては、決定をいたしました。

○高木宏幸教育長 続きまして、その他の報告がございましたらお願いします。

○教育総務部長 特にございません。

○高木宏幸教育長 その他の報告がないようでしたら、次回の教育委員会の日程について、事務局からお願いいたします。

○教育総務部長 次回の教育委員会の日程でございますが、第8回定例会を8月24日、月曜日、時間は午前9時から、教育委員会会議室でお願いしたいと思います。

◎閉会の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。

午後5時23分 閉会